

令和6年7月18日

小野市議会議長 様

総務文教常任委員会  
委員長 山本 悟 朗

## 委員会行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

**1 視察実施日** 令和6年7月2日（火）～令和6年7月4日（木）

### **2 視察メンバー**

総務文教常任委員会委員(川名委員は怪我療養の為不参加)  
山本悟朗（委員長）・宮脇健一（副委員長）・高坂純子（議長）・掘井ひさ代  
前田光教・小林千津子・河島信行

### **3 視察先及び調査内容**

(1) 福島県いわき市（人口：約31万8千人、面積：1232.51K㎡）

いわき版 MaaS 推進プロジェクトについて

(2) 茨城県境町（人口：約2万3千人、面積：46.59K㎡）

スーパーグローバルスクール事業の取り組みについて

(3) 埼玉県加須市（人口：約11万2千人、面積：133.30K㎡）

コミュニティバス「かぞ絆号」について

## 4 調査結果

### 【第1日】

福島県いわき市（人口：約31万8千人、面積：1232.51K㎡）

#### 《視察項目》

いわき版 MaaS 推進プロジェクトについて

#### 《視察内容》

##### いわき市の現状

中心市街地	中心市街地の移動手段はタクシーのみ
観光地	交通結節店から観光地までの移動手段が少ない 観光地を回遊する手段がない
郊外、ニュータウン	日中の公共交通の利便性が低い 高齢化による事故の懸念
中山間地域	路線バスの減便、廃止 タクシー事業者の廃業

##### いわき版 MaaS の推進(令和2年～)

広大な市面積 自家用車依存度が高い  
→そもそも一般的な MaaS の活用に馴染まない  
→いわき版 MaaS の構築と推進  
実施事業の三本柱  
観光 MaaS、おつかい MaaS、行政 MaaS

##### 観光 MaaS

(1) 観光地でのタクシー配車アプリの導入(令和3年11月～令和6年3月)

キャッシュレス化と利用特典電子クーポンの発行を並行して実施

結果 対象となる地域でのタクシーの実働台数は5台。

この規模でのアプリの利用は費用対効果が合わないばかりか  
応用に欠けてかえって使いにくい事が判明。

令和5年度末で事業中止

(2) 乗り合いタクシー事業(令和3年11月～)

観光地、ホテルと交通結節店を結ぶ予約制

キャッシュレス化と利用特典電子クーポンの発行を並行して実施

結果 利用状況は好調、今後も継続

##### おつかい MaaS

(株)マルト(地元スーパー) と いわき市連携企画(令和3年11月～令和6年3月)

地元スーパーマルトホールディングスが実施主体

市は配車システムの費用を負担

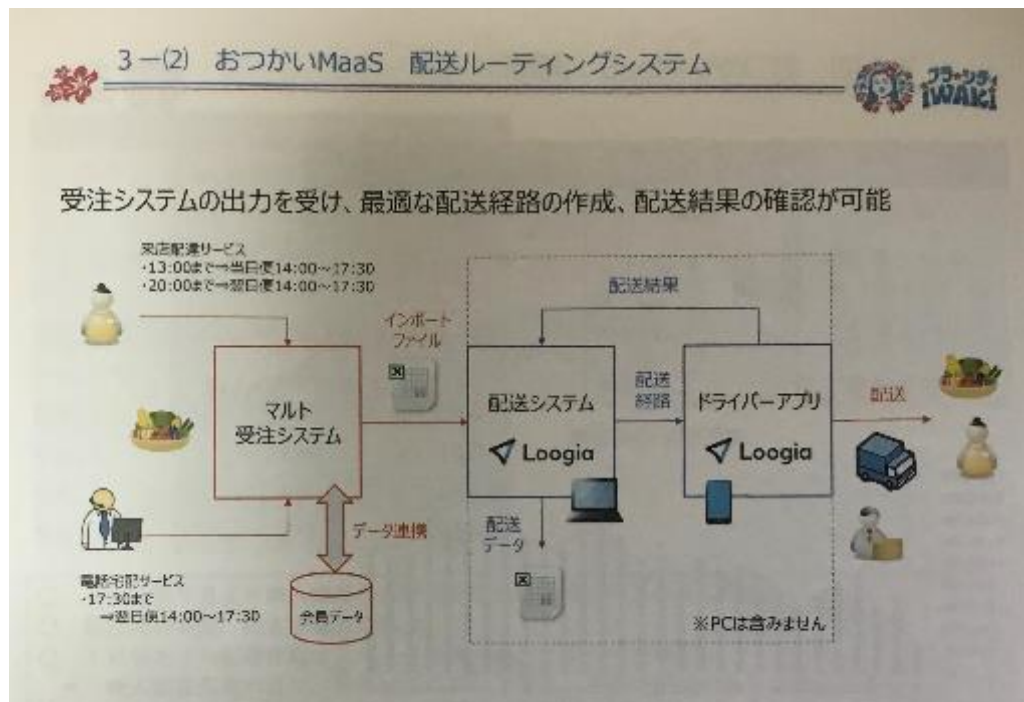
客数は安定して増加しビジネスとして十分成立

年度を重ねる度に利用地区を拡大。(郊外、ニュータウンに加え中山間地域に拡大)

今後の課題は中山間地域での利用者増加

ビジネススケールの拡大に伴い、今後は市の負担をなくし、企業が単独で実施できるよう成長を目指す。

スキームは以下の通り。



### 行政 MaaS

交通不便な中山間地域に出向いて行政サービスを実施するために専用車両を用意  
市役所と通信を行いながら業務を実施

活用実績

選挙区の統合により投票所が極めて遠くなった地域での期日前投票

災害発生時の罹災証明の出張発行

マイナンバーカードの発行業務

市民相談の実施 など



行政 MaaS 使用車両

## 《所 感》

小野市の10倍以上、1,232 km<sup>2</sup>の面積を有するいわき市の施策を学び、よりコンパクトな小野市での施策実施は更なる効果を生むものは何かとの思いで視察に臨んだ。

観光 MaaS について

タクシー配車アプリの導入については、タクシー台数が少ない中でアプリを導入してもかえって混乱するだけで効果が乏しかったことについては、なるほどなと思った。

乗り合いタクシー事業については、現状のらんらんタクシー事業が利用者の拡大によって運営が難しくなってきたときの対策として、らんらんバスとらんらんタクシーの中間に位置する立場で考えておきたい。

おつかい MaaS について

先般とある事情から近隣の高齢者に対して、お買い物の状況について聞き取りを行った所。思ったほど困ってはいないことがわかった。免許を返納した高齢者にとっても、家族の支え、バス、電車の利用、移動販売、通信販売などで大まか買い物については不自由している人は少ない。

バスなどでの外出が困難となった場合に考えられる、移動販売、通信販売、おつかい、の使い分けについて、価格と利便性がどうかみ合うのかについては、行政よりもまず事業者が考えることではないかと改めて感じた。

行政 MaaS について

市域があまりにも広いが故の施策であり、平時においての小野市での運用は考えられない。一方で、災害発生時などに移動できる市役所はとても有効であり、通信機能を備えた車両の確保は必要と感じた。小野市の状況を確認したい。

## 【第2日】

茨城県境町

人口：約2万4千人、面積：46.59K m<sup>2</sup>

## 《視察項目》

スーパーグローバルスクール事業の取り組みについて

## 《視察内容》

すべての子どもが英語を話せる町へ

親の思いとしては

日常的な英語の読み書きができる子どもを育てたい

幼少期にいかに英語に触れられるかが大切

でも、塾に通わせるには金銭面、送迎の負担が…

そこで

自治体が全額負担して、通っている小中学校で英語を学ばせよう。

平成30年4月から事業実施

具体的には

町内の学校に小学校 13 人、中学校 8 人 その他を合わせ合計 24 名の外国人講師を配置  
境町の児童生徒数は一学年 200 人程度までなので小学校では 92 人の児童に 1 人、中学  
校では 75 人の生徒に 1 人の割合で外国人講師が配置されている。

町内には 1 つの大規模小学校と 5 つの小規模小学校があり、1 学年 30 人程度の小学校に  
英語講師が 2 人いる計算になる。児童・生徒と外国人講師の接触機会は大変多くなる。

多数の外国人講師はどこから連れてくるのか

人口比率で 92.6%が英語を話すフィリピンに目をつけマリキナ市と姉妹都市を締結。  
そこから多くの講師を招聘している。

英検について

事業の成果を図る指針として英検の合格者数があげられる

事業開始 6 年目の昨年 11 月時点で、中学 3 年生の英検 3 級保有率は 42.3%で、  
全国平均の 27.2%よりも相当高くなっている。

「英語移住しませんか」をキャッチフレーズに、転入人口の増加をはかる手段としても  
考えている。

NAVYA ARAMA を活用したまちづくりについて

自動運転車両のバスを 2020 年 11 月から運航している。

全国各地で運行が開始されている状況で、境町でも LV3 の運航がなされている。

## 《所 感》

スーパーグローバルスクールについては英語教育に特化した教育推進事業であり、  
英語教育の実施という点では優れた成果をあげている。

また、大量の講師の招聘を可能とした施策もなるほどである。

近頃の大学では、講義を英語で行うことも少なくないと聞くが、近頃の AI 技術などをも  
ってすれば、語学の重要性に疑問を抱く。やはり考える力、生きる力を身に着けること  
が大事なのではと考えてしまうのは、私がもはや子育て世代ではないからだろうか。

自動運転バスの運行については、これまでに輪島市、京都市、三田市などの実証実験を  
視察してきた。近頃では全国の地方都市で運行が実施されていて、安全性が高まってい  
ることが実感される。

LV3 ではなかなか気乗りしない事業であるが、LV4 が見えてきたときに、乗り遅れないよ  
うにしなければならない。

## 【第 3 日】

埼玉県加須市

人口：約 11 万 2 千人、面積：133.30K m<sup>2</sup>

## 《視察項目》

コミュニティバス「かぞ絆号」について

## 《視察内容》

### 市の交通事情と導入の経緯

平成 22 年に 1 市 3 町が合併して、新たに加須市が誕生。

平成 24 年から新加須市としてのコミュニティバスを運行。

市内の高低差は 6m しかなく、ほぼ平坦な土地で隣接市とも平坦に繋がっている。

市のほぼ中心部を東急伊勢崎線が東西に走り、市の東部には東武日光線が走っている。

事業の目的は

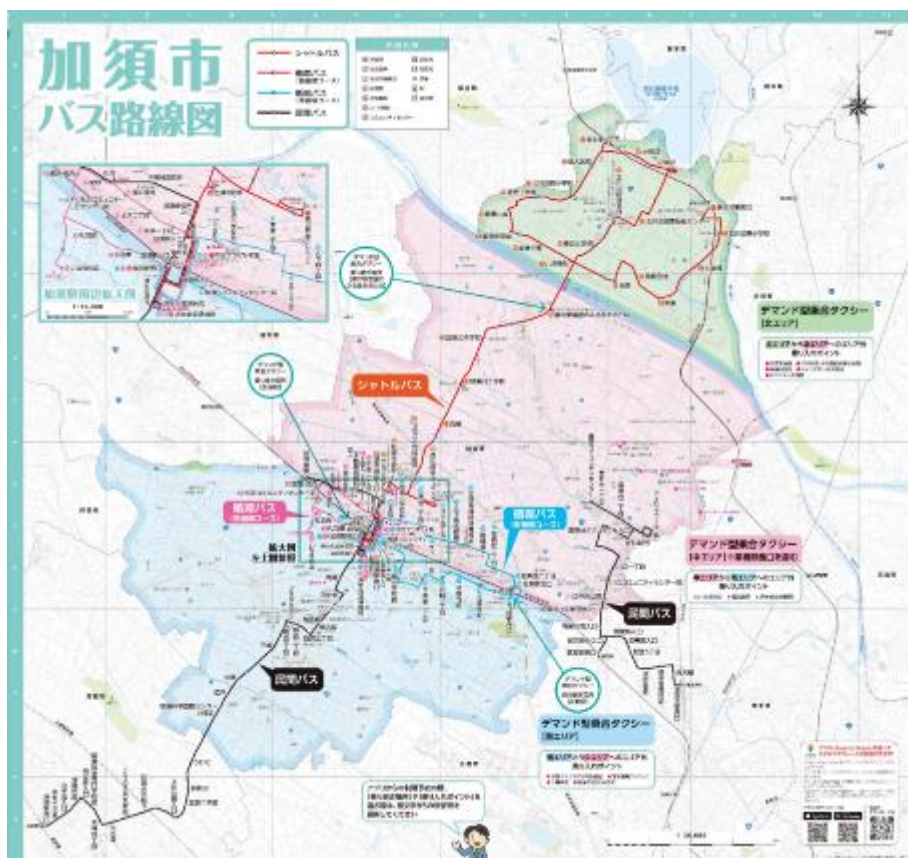
高齢者など交通弱者の足の確保

病院や公共施設等へのアクセス利便性確保

公共交通不便地域の解消

### 3 つの運航方式

地域の特性に合わせ、デマンド型乗り合いタクシー、循環バス、シャトルバスの 3 種類の運航をしている。



デマンド型乗り合いタクシー 利用料金は 1 回 300 円

市内を 3 分割(上図のグリーン・ピンク・ブルー)し、分割された地区内だけを移動する場合に利用できる。

他地区に移動する場合には、乗り継ぎ地点で乗り換える。

8台の車両で運行。

朝7時から1時間毎の予約制で17時まで運行。

市内の居住者のみが利用可能。事前登録と利用予約が必要。

移動範囲を絞り込むことで、1時間単位で予約が取れるように工夫している。

令和4年10月からはAIによる予約・配車システムを導入

令和5年2月からは予約アプリの利用開始。

(オンライン予約と車両の位置情報確認サービスの実施)

シャトルバス

利用料金は1回200円

市内を南北に運行している(図の赤いライン)。

1日4往復。

市の南側で運行する路線バスと合わせて、南北に長い市域の幹線の役割を果たす。

中心部にある中心市街地の施設利用の利便性を図っている。

循環バス

利用料金は1回100円

人口が集中している中心市街地を循環する。

1日10便の運航

人口が集中しており、デマンド方式ではパンクするため、短距離を循環させている。

乗車定員は36名。

## 《所 感》

特徴的なのは、デマンド型乗り合いタクシーと循環バスの考え方。

鉄軌道が機能しているこの町では、コミュニティバスはフィーダー系統としての役割に徹していて、あえて長距離の移動を設定しないことで、短時間での移動を可能にしている。

町々でそれぞれ人の動きには違いがあり、その特徴を生かして公共交通は運用されている。加須市のかぞ絆号の運用は素晴らしいものだが、小野市のらんらんバス、らんらんタクシーの運用も地域に適したものだと思える。

小野市では、らんらんバスの運行距離が長くなっているため、どうしても移動に時間がかかる。さらには便数を増やすことは難しい。

これを補完する意味もあって、デマンド型乗り合いタクシーよりも利便性が高いらんらんタクシーの運行をおこなっているが、利便性が高い分、利用者の負担は加須市よりも多い。

小野市の現状として、タクシーの台数が特段不足しているわけではなく、適切な運用ができてきていると考えるが、将来にわたって運転手の確保などの問題が出てくる可能性は高い。

数年後には自動運転技術が進歩し、わが国でも、LV4. LV5の運用ができるようになってくる。それまでの期間、そしてその後、個別輸送と乗り合い型輸送の効果を検証していく必要がある。

令和6年7月17日

小野市議会議長 高坂純子様

総務文教常任委員会  
宮脇健一

## 行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

### 記

**1 視察実施日** 令和6年7月2日（火）～令和6年7月4日（木）

**2 視察メンバー**

山本悟朗（委員長）・宮脇健一（副委員長）・高坂純子（議長）・掘井ひさ代  
前田光教・小林千津子・河島信行

**3 視察先及び調査内容**

(1) 福島県いわき市（人口：約31万8千人、面積：1,232.51Km<sup>2</sup>）

**いわき版 MaaS 推進プロジェクトについて**

（交通施策において先進的な取り組みを推進されているいわき市。複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせることで検索・予約・決済等を一括で行うサービス MaaS の取り組みについて調査する）

(2) 茨城県境町（人口：約2万3千人、面積：46.59Km<sup>2</sup>）

**英語教育（スーパーグローバルスクール授業）について**

（英語が話せる子どもたちの育成を目指されている境町。日常的に英語に触れ、小中学校9年間で実用的な英語力を身に付けることを目的とする取り組みについて調査する）

(3) 埼玉県加須市（人口：約11万2千人、面積：133.3Km<sup>2</sup>）

**コミュニティバス「かぞ絆号」について**

（地域住民の足の確保としてコミュニティバスを活用されている加須市。運行している交通手段について調査する）



## 4 調査結果

### 【第1日】

福島県いわき市

人口：約31万8千人 面積：1,231.35 Km<sup>2</sup>

### ≪視察項目≫

いわき版 MaaS 推進プロジェクトについて

### ≪視察内容≫

◎いわき版 MaaS 推進プロジェクトについて

#### 1. いわき市の現状と課題

##### ✓エリア別の課題

##### ・中心市街地

住民にとっても来訪者にとっても市街地内の交通利便性が低い

→循環路線バスの運行本数が1日4便のみ

→中心市街地（いわき駅周辺2km圏内）の移動手段はタクシーのみ

##### ・観光地

駅などの交通結節点から観光地までの移動手段が少ない

観光地周辺エリアを回遊する移動手段がない

自家用車での来訪者が多く渋滞や駐車場不足が生じている

##### ・郊外部、ニュータウン

日中における公共交通の利便性が低い

高齢化による事故が懸念されている（高齢化率40%以上のエリア有）

##### ・中山間地域

路線バスの減便・廃止、タクシー事業者の廃業等が生じている

自家用車に依存しないと生活が成り立たない

##### ✓交通課題の整理

##### ・公共交通に係る課題

公共交通の維持・確保

交通弱者等の移動手段の確保

来訪者等の二次交通の確保

##### ✓都市構造に係る課題

・拠点間の交通ネットワーク強化

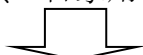
・自家用車に依存しない社会の構築

#### 2. いわき版 MaaS 推進プロジェクト

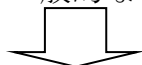
目的：デジタル技術の活用や新たな移動手段の確保、移動の目的と連携した新たな地域サービスの構築により、市民生活の利便性向上や地域経済の活性化を図る

14市町村が合併した広域多核分散型の都市構造

広大な市面積・自家用車依存が高い



公共交通の利用が少なく、一般的な MaaS の活用がなじまない



いわき市の特性に応じたサービスを構築する

(1) 観光 MaaS について

観光やビジネス来訪者の交通利便性を向上し、回遊性を高めることにより、地域活性化を図るため、観光タクシー等への配車アプリ導入などの実証を行うもの  
(実施期間：R3.11～R6.3)

✓ タクシー配車アプリの導入

- ・ 2つの移動形態に対応

観光タクシー（小名浜・常磐地区内の観光拠点の移動）

乗合タクシー（小名浜・常磐地区間の移動）

- ・ 市内タクシー事業者 5社による共同運行

✓ キャッシュレス決済の導入

Suica 等交通系電子マネー、WAON、nanaco、PayPay

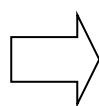
✓ 利用者特典電子クーポンの発行

観光施設や商店等協賛店での特典

観光移動の利便性向上×交通サービスの DX 推進

・ 観光タクシー乗車人数実績

	観光タクシー（エリア内移動）		
	小名浜	常磐	計
令和3年度 11月～3月	6	15	21
令和4年度	40	17	57
令和5年度	28	4	32
合計	74	36	110



2年5ヶ月で利用が110件と低調。令和5年度は前年度と比べても利用が伸びていない。

・ 乗合タクシー（アクアマリンパーク号）予約実績

	乗車人数計	ハワイアンズホテルフロントでの予約		フロント予約以外	
		乗車人数	割合	乗車人数	割合
令和3年度 11月～3月	1,325	978	73.8%	347	26.2%
令和4年度	6,647	5,464	82.2%	1,183	17.8%
令和5年度 4月～1月	8,235	7,313	88.8%	922	11.2%
合計	16,207	13,755	84.9%	2,452	15.1%

令和5年度においてはR5.4～1（10ヶ月間）でR4年度（年間）の123.9%を達成

【ハワイアンズホテルフロント予約以外からの予約・乗車方法】

- ・ 湯本温泉各旅館フロントでの予約受付
- ・ 直接の電話予約
- ・ WEB予約 MONET アプリ（令和3年度）

google フォーム（令和 4 年 4 月から、磐城タクシー様管理）

- ・予約なしに乗車

## ◎事業の今後について

### 【観光タクシーの利用状況が低いことについて】

#### ✓社会的要因

- ・新型コロナウイルス感染症の影響等により、いわき市来訪者は、R 元年の 760 万人に対し、R3 年は 380 万人、R4 年は 546 万人（観光交流人口）
- ・R5.5 月の 5 類移行に伴い増加に転じているものの、ビジネス利用においては WEB 会議などの浸透により、来訪者の増加に繋がっていない

#### ✓事業実施上の課題・反省

- ・タクシー配車アプリ自体が依然として予約確定しても配車が遅いといった不確定要素があり、地方ではその不確定さが高まる地方においては、従来の電話予約や駅待機タクシー利用の方が利便性が高く、アプリでそれ以上の利便性を向上できなかった

#### ✓今後について

- ・観光タクシー事業 → 事業終了
- ・乗合タクシー事業（アクアマリンパーク号） → 運行の継続

## (2) おつかい MaaS について

高齢者等の買い物弱者を支援し、生活利便性の向上を図るため、地元のスーパーと連携し、宅配サービス等の実証を行うもの

（実施期間：R3.11～）

（R5.7 より、中山間地域へエリア拡大）

（R6.3 以降は民間での実装）

#### ✓宅配サービス等の実施

- ・宅配サービス
- ・来店配達サービス

#### ✓配送システムの導入

- ・配送管理
- ・配送コースルーティング
- ・配送状況の可視化

生活利便性の向上

×

小売り・物流の DX 推進

#### ✓経過

### ○令和 2 年度

#### 【おつかいタクシーMaaS プロジェクト】の実施

- ・コロナ禍による利用者の減少から空車（余剰）となるタクシーを活用して誕生した地域サービス「おつかいタクシー」の取り組みと連携

- ・同じくコロナ禍により売り上げが減少する飲食店を応援
- ・デリバリー商品の発注からタクシーによる配達を一括する ICT システムを導入  
連携主体：福島県タクシー協会いわき支部  
実施期間：令和3年2月15日（月）～令和3年3月31日（水）[45日間]

○令和3年度

【(株)マルト×いわき市連携企画「おつかい MaaS」】の実施

- ・地域活性化包括連携協定に基づき、食料品等の配送サービスを開始
- ・多点ルート検索・配送管理システムを活用して配送効率の向上等を実証

連携主体：(株) マルトグループホールディングス

実施期間：令和3年11月8日から

実施店舗：マルト SC 窪田店

○令和4年度

【(株)マルト×いわき市連携企画「おつかい MaaS」】の継続・拡大

拡大時期：令和4年5月2日から

追加実施店舗：マルト平白土店

○令和5年度

【(株)マルト×いわき市連携企画「おつかい MaaS」】の継続・拡大

拡大時期：令和5年7月2日から

対象地区の拡大（SC 窪田店：田人地区（中山間地域）、平白土店：平地区沿岸

✓実績



SC窪田店 田人地区		
年月	件数	売上
R5.7	6件	26,679円
R5.8	5件	29,481円
R5.9	11件	65,159円
R5.10	12件	57,548円
R5.11	16件	82,085円
R5.12	15件	81,049円
R6.1	11件	41,150円
R6.2	14件	45,491円
R6.3	8件	27,582円



- ・今和5年7月より田人地区への配送を開始（毎週木曜日のみの配送）
- ・配送開始以降、売上は徐々に拡大
- ・1日当たりの配送数は2~4件程度（最大で8~9件程度）  
→田人地区配送の日に、勿来地区においても7,8件の配送がある場合もある

✓今後について

- ・事業開始以降、ロコミ等による拡大やグループホーム等の大口顧客の獲得により、順調に売り上げは拡大。
- ・中山間地域での売上においては伸びていない状況にあるが、地区の社会福祉協議会等と連携の上、住民への説明を行うなど細かく広報を実施。
- ・今後、別地域への拡大も視野に検討を進めている。

○今後については

(株) マルト単独による運営へ移行

(3) 行政 MaaS について

中山間地域等における行政サービスの利便性向上を図るため、遠隔相談機能等を搭載した車両を活用し、出張行政サービス「お出かけ市役所」の実証を行うもの  
(実施期間：R2.10~)

✓行政 MaaS 車両の活用

- ・用途に応じた車内環境の変更
- ・遠隔相談機能搭載
- ・地域イントラネット環境搭載

✓出張行政サービス

- ・住民票、税証明書等の発行
- ・マイナンバーカード新規申請
- ・各種相談業務
- ・選挙
- ・総合防災訓練での活用等

行政サービスの利便性向上

×

行政の DX 推進

✓概要

・目的

高齢運転者による交通事故の増加が社会問題となり、運転免許証の自主返納等が進む中、中山間地域等においては、自家用車に代わる移動手段の確保が困難な場合も多く、生活に支障を来す恐れが生じている。

「お出かけ市役所」は、こうした不安の解消に向け、行政サービスが地域に出向くことで、市民の利便性向上を図ることを目的として実施しているもの。

・これまでの取り組み

令和2年度：MaaS車両を活用し、遠隔相談サービスの実証実験を実施。

令和3年度：MaaS車両へ新たに地域イントラネット環境を整備し、各種相談業務に加えて、住民票や税証明書等の申請受付及び発行業務を行うとともに、マイナンバーカード新規申請受付業務を行うなど、業務内容を拡充し実施。

令和4年度：対象地区を拡大するとともに、前年度の業務に加え、新たにフレイル予防事業を実施。マルチタスク車両（行政MaaS）車両購入。

令和5年度：通年での事業開始。

《令和5年度の主な活用業務》

内容	地区	担当課
【お出かけ市役所】 住民票、税証明書申請受付・発行、 マイナンバーカード新規申請受付	川前、田人、中央台、 久之浜・大久 【R5新規】 遠野、小川、好間	各地区支所、SC 市民課、税務課、市民税課、 資産税課、豊間市民SC
市総合防災訓練	小名浜	災害対策課
り災証明書申請受付 (令和5年9月8日台風13号による大雨 被害への対応) 移動期日前投票所 (令和5年11月12日執行 福島県議会 議員一般選挙における活用)	内郷、常磐、平、 好間、勿来  小川	 市民税課  選挙管理委員会
【お出かけ市役所と併せて実施】 オンライン窓口を搭載した実証事業	川前、田人、中央台 久之浜・大久、三和 遠野、小川、好間	市民課

《活用車両》

MONET Technologies株式会社開発  
MaaS向けマルチタスク車両 1台  
(トヨタ ハイエースグランドキャビン)



R5実績 (R6.2まで)	回数	利用(相談)者数					活動等 説明者数	備考	
		証明書	マイナ カード	ごみ 納付券	相談	計			
お出かけ市役所	川前	5回	0人	14人	0人	0人	14人	39人	・山間部
	久之浜・大久	5回	1人	7人	—	0人	8人	28人	
	田人	6回	0人	9人	0人	1人	10人	33人	
	遠野	3回	0人	18人	0人	0人	18人	20人	
	小川	3回	1人	11人	0人	0人	12人	10人	
	好間	2回	0人	11人	0人	0人	11人	30人	
	中央台	2回	2人	0人	—	0人	2人	3人	・市街地
計	26回	4人	70人	0人	1人	75人	163人		
移動期日前投票所	1回	—	—	—	—	40人	—	・投票者数	
り災証明書 出張申請受付	32回	—	—	—	—	87人	—	・9/8台風13号大雨(9/13~9/30)	
その他	15回	—	—	—	—	—	756人	・地区講演会参加 ・市防災訓練参加 ・展示会出展(東京・仙台・いわき) ・地区祭事出展 ・他自治体議会等による行政視察	

## 《所 感》

今回の視察は交通施策が一つのテーマになっており、視察先を選定するにあたって、まずは先進的な取り組みをされている市を視察することを目的とし、いわき市を選定させていただきました。

小野市といわき市とでは規模こそ違いますが、公共交通の利用が少なく、自家用車依存が高いため、一般的な MaaS の活用がなじまないという点では、同じ特性を持っているように感じた。小野市における MaaS の取り組みとしては、まだデータの整備をしている段階であり、おつかい MaaS や行政 MaaS といった次のレベルの取り組みをされているところを視察できたことは非常に良かったように思う。今後もデジタル技術を活用することで、新たな移動手段の確保、移動の目的と連携した新たな地域サービスの構築により、市民生活の利便性向上や地域経済の活性化を図っていくことが重要だと考える。

## 【第2日】

茨城県境町

人口：約2万3千人 面積：46.59 Km<sup>2</sup>

## 《視察項目》

英語教育（スーパーグローバルスクール授業）について

## 《視察内容》

- ・スーパーグローバルスクール事業

### 重点①Small talk

小学校：まとまりのある対話

自分の考えや気持ちを表現

5年生…教師と児童 6年生…児童と児童

中学校：話すこと（即興）へのつながり

### 重点②Station activity

→more individualized

- ・小学校：英語でコミュニケーションを図ろうとする主体性と学習の個別化
- ・中学校：多様な自己表現活動の場を通した総合的・実用的な英語力へ  
reading/listening/speaking/writing/conversation 等の技能統合型の活動

## ✓ALT の派遣

小学校：英語講師13名が ALT として常駐

中学校：英語講師8名が ALT として常駐

HRT/JET によるティームティーチング

※HRT/JET による class management

+

※ALT…All English ※HRT/JET…classroom English  
 指導力のブラッシュアップ

✓教材

- 小学校：①Switch On(DVD)(週3回10分程度)  
 ②We can book  
 ③英検デジタルコンテンツ（5・6年生のみ）

- 中学校：①オリジナル教材  
 ・既習表現の定着  
 ・英検学習  
 ・発信力向上  
 ・国際交流  
 ②英検デジタルコンテンツ

✓学習開始年齢の早期化・学習時間の確保

		文部科学省・教育課程		町	
		名称	時数	名称	時数
小学校	1・2年				年間35時間 (週1時間)(裁量)
	3・4年	外国語活動	年間35時間 (週1時間)	SGSタイム (英語活動)	年間35時間 (週1時間)(総合)
	5・6年	外国語	年間70時間 (週2時間)		年間35時間 (週1時間)(総合)
中学校	1～3年	外国語	年間140時間 (週4時間)	SGSタイム (総合・裁量)	年間35時間 (週1時間)(総合・裁量)

✓英検の全額補助/年1回

- ・中3、小6は悉皆、他学年は希望受験  
 【英語習得によるインセンティブ】
- ・英検の活用 ・TOEIC への挑戦
- ・進路や職業の選択肢の広がり
- ・ハワイ州立アリアマヌ中学校と姉妹校締結



→教員や中学生の交流 ホームステイなど

英検取得目標 小学6年生：3級  
 中学3年生：2級

令和2年度		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
英検	レベル									
2級	高校卒業								1	
準2級	高校中級								3	14
3級	中学卒業						2	5	21	44
4級	中学中級				2	5	15	34	36	44
5級	中学初級	1		5	13	34	102	27	8	13

令和3年度		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
英検	レベル									
2級	高校卒業							1	3	2
準2級	高校中級						1	3	2	5
3級	中学卒業					2	3	14	33	26
4級	中学中級		1		2	10	15	20	28	23
5級	中学初級		2	8	12	28	89	15	3	4

令和4年度		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
英検	レベル									
2級	高校卒業								2	1
準2級	高校中級							1	9	5
3級	中学卒業			1		1	5	2	20	29
4級	中学中級			1	1	6	18	21	35	26
5級	中学初級		1	5	7	25	59	10	4	

【質問1】英検取得目標について

境町では、スーパーグローバルスクール事業を通して、小学校1年生から日常的に英語に慣れ親しみ、小中学校9年間を通して英語力の向上を図り、グローバル社会で活躍できる人材の育成を目指している。

事業化するにあたって、便宜上「小6で3級、中3で2級」と数値目標を定めているが、英検の取得が最終的な目標ではなく、実践的な英会話を通して、自分の言葉で実際に英語を話せるようになることが目標。元々非常に高い目標設定をしていることもあり、現状、数値目標を達成している児童生徒は少数だが、本来の趣旨に沿って活動をしていくことが英検受験率や取得率にも寄与するものと考えている。

【質問2】授業数の確保について

文部科学省の外国語活動、外国語に加え、スーパーグローバルスクール事業に係る英語活動として、小学校1年生から週に1時間、SGSタイムを実施。

外国語学習が始まる前の小学校1年生から英語教育を始めることで、日常的に英語に慣れ親しむことができ、その結果、英語に対する苦手意識を持たず、楽しく学習できる環境を整えることができる。

授業数の確保については、小学校1・2年生は、裁量として、小学校3年生から6年生においては、特別の教育過程を編成し、教育過程特例校として、SGSタイムを実施している。(小学校3・4年生は、通常外国語活動の時間とSGSの時間で週に2時間。小学校5・6年生は、通常外国語科の授業とSGSの時間で週3時間英語の授業を実施)

中学校においては、総合的な学習の時間から1時間をSGSタイムとし、通常外国語科の授業にSGSの時間を入れて、週5時間英語の授業を実施している。

《所感》

境町のスーパーグローバルスクールは、家庭の経済状況に関係なく、通っている小・中学校で子どもが英語力を身につけられることが重要なポイントだと考える。英語教育に力を入れることで子育て世代の移住を後押しすることにもなり、転入人口にも波及効果が出ていることは非常に参考になった。

現在の子どもは小さい頃から英語と触れ合うことによって、グローバル社会で活躍で

きる人材を育成するきっかけ作りができるのは大変良いことだと感じた。小野市においても、子どもたちにとって何が良いのか、引き続き考えていく必要があると考える。

### 【第3日】

埼玉県加須市

人口：約11万2千人 面積：133.3K㎡

#### ≪視察項目≫

コミュニティバス「かぞ絆号」について

#### ≪視察内容≫

加須市コミュニティバス「かぞ絆号」導入の経緯  
(H22.3.23 1市3町の合併 ~ H24.10.1 運行開始)

#### 1. 加須市の現況

- ・平成22年3月23日1市3町が新たに加須市として合併。
- ・関東平野のほぼ中央部を流れる利根川中流域にあり、海拔は最高15.672m、最低9.666m、高低差6mほどの平坦地。
- ・東西と南北にそれぞれ約16kmの広がりを持ち、面積は133.30k㎡、人口は約11万人であり、市街地と農村地域が調和する田園都市。

#### 2. 加須市コミュニティバスの現況

- ・コミュニティバスは、月曜日から土曜日（祝日含む）に運行。運休日は日曜日、年末年始（12月29日から1月3日まで）。
- ・利用料金の支払いは、現金または利用券で、どの運行形態でも利用できるお得な利用券1セット1,000円（11枚つづり）も販売。

#### ① デマンド型乗合タクシー 利用料金：1回300円（未就学児無料）

- ・加須市内を利根川と東武伊勢崎線を境に、北・中・南の3つのエリアに区分し、そのエリア内を乗合タクシーにより、ドア・ツー・ドアで、1時間以内に送り届けるもので、北エリアで1台、中エリアで4台、南エリアで3台の車両が、それぞれ1日10便が運行。
- ・ご利用は、市内に居住する方に限り、事前の利用者登録と、利用したい便の1週間から30分前までの利用予約が必要。



#### ② シャトルバス 利用料金：1回200円（未就学児無料）

- ・市内を南北に縦断する形で運行しており、1日4往復の計8便が運行。



- ・新古河駅西口から北川辺地域（利根川以北）を細かく巡回し、利根川を越えると主なポイントを経由し、済生会加須病院までを結ぶルート。
- ・誰でも利用可能。

③ 循環バス 利用料金：1回100円（未就学児無料）

- ・加須駅南口を起終点として、人口等が集中し、一定の経済的な需要が見込まれる地域を中心に、加須駅から西へ向かう西循環コースと、加須駅から東の花崎駅方面へ向かう東循環コースがあり、1日10便が運行。
- ・誰でも利用可能。



3. 事業に至る経過

- ・合併前の地域で異なるコミュニティバスの運行方式  
旧加須市：循環バス  
旧騎西町：デマンド型乗合タクシー  
旧北川辺町・旧大利根町：運行なし

→合併に際して、「合併後に新たな実施方法を検討した上で、新加須市全域を対象とした新たなコミュニティバスを導入すること」を合意

4. 事業の目的

- (1) 高齢者など交通弱者の足の確保
- (2) 病院や公共施設等へのアクセス利便性確保
- (3) 公共交通不便地域の解消

5. 新たなコミュニティバスの運行までの主な検討経過

- ・加須市地域公共交通会議  
平成22年12月1日設置  
平成22年12月～平成24年2月までの間に5回開催  
→「加須市地域公共交通総合連携計画」策定（平成24年3月）
- ・内部会議 平成23年2月～平成24年3月までの間に7回開催
- ・地域別懇談会（旧北川辺町と旧大利根町の住民を対象としたワークショップ）  
平成22年10月～12月までの間に3回開催
- ・アンケート調査
- ・「加須市地域公共交通計画」策定（令和4年3月）

6. 加須市コミュニティバス円滑運行協議会

- ・平成24年5月2日設置
- ・市内交通事業者3社で構成する協議会
- ・市と協議会で「加須市コミュニティバス運行業務に関する基本協定書」を締結
- ・協議会は、市からの補助金を財源にコミュニティバス「かぞ絆号」を運行
- ・協議会は、市からの委託を受け、デマンド型乗合タクシーの予約センターを運営

## 7. 運行開始

- ・平成24年10月1日
- ・「デマンド型乗合タクシー」、「循環バス」、「シャトルバス」の3つの運行方式

## 8. 直近の運行見直し等

- ・令和4年1月  
デマンド型乗合タクシーの車両台数を合計6台→合計8台へと増車  
シャトルバスの運行ルートが北川辺地域を巡回するように変更
- ・令和4年6月  
デマンド型乗合タクシーのエリア外乗り入れポイントに済生会加須病院を追加  
循環バスの運行経路を延伸し、済生会加須病院の停留所を追加  
シャトルバスの運行経路を延伸し、済生会加須病院の停留所を追加
- ・令和4年10月  
デマンド型乗合タクシーのAIによる予約・配車システムを導入
- ・令和5年2月  
デマンド型乗合タクシーの予約アプリ利用開始  
(オンライン予約と車両位置情報確認サービスの開始)

## 9. 国庫補助金の活用

- ・国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統補助金）」

### 《所 感》

人口減少や高齢化がどの市でも問題となってくる中、地域住民の移動手段の確保は今後ますます重要になると考える。加須市では、3つの交通手段を合わせて「かぞ絆号」とし、高齢者など交通弱者の足の確保、病院や公共施設等へのアクセス利便性確保、公共交通不便地域の解消を図っていた。

デマンド型乗合タクシーにおいては、日曜日と年末年始は運休しており、民間圧迫を避けるための工夫やバランスを取る難しさを感じた。

小野市ではコミュニティバス「らん♡らんバス」やデマンドタクシー「らん♡らんタクシー」を運行している。これからの課題としては、新ルートの運行や2024年問題、バス運転手の不足などが考えられるが、地域住民の移動手段を確保する必要不可欠な施策の一つとして、引き続き住民の声を聞きながら進めていくことが重要だと考える。

令和 6年 7月 11日

小野市議会議長 高坂 純子 様

総務文教常任委員会  
掘井 ひさ代

## 行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会 行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

### 記

**1 視察実施日** 令和 6年 7月 2日 (火) ~令和 6年 7月 4日 (木)

**2 視察メンバー**

委員長 山本 悟朗 副委員長 宮脇 健一

委員 掘井 ひさ代・前田 光教・高坂 純子・小林 千津子・河島 信行

**3 視察先及び調査内容**

(1) 福島県いわき市 (人口 : 318,803 人 面積 : 1,232.51K m<sup>2</sup>)

いわき版MaaS 推進プロジェクトについて

(2) 茨城県境町 (人口 : 23,874 人 面積 : 46.59K m<sup>2</sup>)

英語教育 (スーパーグローバルスクール授業) ・現地施設見学

(3) 埼玉県加須市 (人口 : 112,045 人 面積 : 133.30K m<sup>2</sup>)

コミュニティバス「かぞ絆号」について

## 4 調査結果

### 【第1日】

福島県いわき市

人口 318,803人 面積 1,231.35K㎡

#### ≪視察項目≫

いわき版 MaaS 推進プロジェクトについて

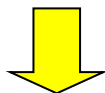
#### ≪視察内容≫

#### 【いわき市の現状と課題～主な交通課題～】

- \* 人口減少・高齢化の進展
- \* 広域多核分散型の都市構造などにより、自動車分担率 76.6%で中核市トップ
- \* 公共交通利用者の減少
- \* 公共交通徒歩圏カバー率の低下(22.9%)
- \* R6.4月既存のバス会社が市内を走る15路線廃止

#### 【いわき市の現状と課題～エリア別の課題～】

- \* 中心市街地 ⇒ 市街地内の交通利便性低い
- \* 観光地 ⇒ 駅等から観光地までの移動手段が少ない  
観光地周辺エリアを回遊する移動手段がない  
自家用車で訪来者が多く渋滞・駐車場不足
- \* 郊外部・ニュータウン ⇒ 日中における公共交通の利便性が低い  
高齢化による事故が懸念される
- \* 中山間地域 ⇒ 路線バスの減便・廃止、タクシー事業者の廃業  
自家用車に依存しないと生活が成り立たない



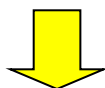
### ◎交通課題の整理

#### 公共交通に係る課題

- 公共交通の維持・確保
- 交通弱者等の移動手段の確保
- 来訪者の二次交通の確保

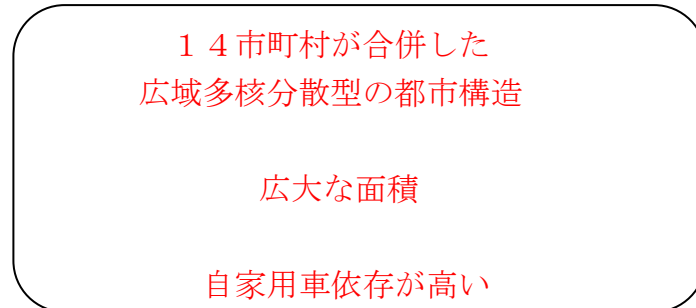
#### 都市構造に係る課題

- 拠点間の交通ネットワーク強化
- 自家用車に依存しない社会の構築



## 【いわき版 MaaS 推進プロジェクト】

目的：デジタル技術の活用や新たな移動手段の確保、移動の目的と連携した新たな地域サービスの構築により、市民生活の利便性向上や地域経済の活性化を図る



公共交通の利用が少なく一般的な MaaS の活用がなじまない

いわき市の特性に応じたサービスを構築する



令和2年11月、官民3者で「MaaS 推進に関する連携協定」を締結し取り組みを推進



観光 MaaS (ヒトの移動)

⇒ 観光移動に対応したタクシー配車アプリ導入等

おつかい MaaS (モノの移動)

⇒ 地元スーパーと提携し宅配サービス実施に向けたシステム導入

行政 MaaS(サービスの移動) ⇒ 出張行政サービス『お出かけ市役所』の実地

## 【観光 MaaS】

観光やビジネス来訪者の交通利便性を向上し、回遊性を高めることにより、地域活性化を図るため、観光タクシー等への配車アプリ導入などの実証を行うもの（実施期間：R3.11～R6.3）

- タクシー配車アプリの導入
- キャッシュレス決済の導入
- 利用者特典電子クーポンの発行

↓ ↓ ↓

### 観光移動の利便性向上×交通サービスの DX 推進

#### 実績

- 【観光タクシー事業】・・・2年5か月で利用が110件と低調  
電子クーポン利用率 / タクシー：5.5%  
店舗：15.5%
- 【乗合タクシー事業】・・・R5年度は10か月間でR4年度の123.9%を達成

#### 事業の今後について

観光タクシーの利用状況が低い⇒新型コロナウイルス感染症の影響で来訪者減  
WEB会議等の浸透  
タクシー配車アプリの利便性が低い

観光タクシー事業 \_\_\_\_\_ 事業終了  
乗合タクシー事業（アクアマリンパーク号） \_\_\_\_\_ 運行の継続

## 【おつかい MaaS】

### ●おつかい MaaS 概要

高齢者等の買い物弱者を支援し、生活利便性の向上を図るため、地元のスーパー（株マルト）と連携し、宅配サービス等の実証を行うもの

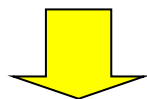
#### 宅配サービス等の実施

- ・ 宅配サービス
- ・ 来店配達サービス

#### 配送システムの導入

- ・ 配送管理
- ・ 配送コースルーティング
- ・ 配送状況の可視化





生活利便性の向上

×

小売り・物流のDX推進

●おつかい MaaS 経過

令和3年度 【(株)マルト×いわき市連携企画「おつかい MaaS」】の実施

- ・地域活性化包括連携協定に基づき、食料品等の配送サービスを開始
- ・多点ルート検索・配送管理システムを活用

令和4年度 【(株)マルト×いわき市連携企画「おつかい MaaS」】の継続・拡大

令和5年度 【(株)マルト×いわき市連携企画「おつかい MaaS」】の継続・拡大

(R5.7より、中山間地域へエリア拡大)

令和6年3月以降は民間での実装

●おつかい MaaS 配送ルーティングシステム

受注システムの出力を受け、最適な配送回路の作成、配送結果の確認が可能

●おつかい MaaS 市の補助について

MONETに委託料200万円補助

広報

●おつかい MaaS 実績

SC 窪田店・・・ 2,087件 15,301,979円 (令和5年度)

平白土店・・・ 1,433件 8,785,260円 (令和5年度)

SC 窪田店 田人地区・・・ 8件 27,582円 (令和6年3月)

●おつかい MaaS の今後

\*事業開始以降、口コミ等による拡大やグループホーム等の大口顧客の獲得により  
順調に売り上げは拡大

\*中山間地区での売り上げにおいては伸びていない状況にあるが、地区の社会福祉協  
議会等と連携の上、住民への説明を行うなど細かく広報を実施

\*今後、別地域への拡大も視野に検討を進めている



(株)マルト単独による運営に移行



おつかい MaaS チラシ

移動販売車「とくし丸」

## 行政 MaaS

### ● 行政 MaaS 概要

中山間地域等における行政サービスの利便性向上を図るため。遠隔相談機能等を搭載した車両を活用し、出張サービス「お出かけ市役所」の実証を行うもの（実施期間：R2.10～）

#### 行政 MaaS 車両の活用

- ・用途に応じた車内環境の変更
- ・遠隔相談機能搭載
- ・地域イントラネット環境搭載

#### 出張行政サービス

- ・住民票、税証明証等の発行
- ・マイナンバーカード新規申請
- ・各種相談業務
- ・選挙
- ・総合防災訓練での活用 等

行政サービスの利便性向上

×

行政の DX 推進

目的・・・高齢運転者の運転免許証の自主返納等が進むなか、中山間地域等においては自家用車に代わる移動手段の確保が困難な場合も多く、生活に支障を来す恐れが生じている。

「お出かけ市役所」はこうした不安の解消に向け、行政サービスが地域に出向くことで市民の利便性向上を図る

- 活用業務
- \*住民票、税証明書等申請受付・発行、マイナンバーカード新規申請受付
  - \*市総合防災訓練
  - \*り災証明書申請受付
  - \*移動期日前投票所
  - \*オンライン窓口を搭載した実証事業



行政 MaaS 「お出かけ市役所」

### 【所感】

いわき版 MaaS は、路線バスの減便・廃止。公共交通の利便性が低い。自家用車に依存しないと生活が成り立たないが、高齢者が多く免許証返納者の増加等の交通課題を解消するため推進しているプロジェクトで、ICT の活用や新たな移動手段の確保を通じて、市民生活の利便性向上や地域経済の活性化を目指した取り組みです。

「おつかい MaaS」は地元の(株)マルトと連携し、買い物支援や生活利便性向上を目指し、配送システムを導入した宅配サービスを実施。

また、移動スーパー「マルトとくし丸」も開業。

「行政 MaaS」は出張行政サービス「お出かけ市役所」を実施。

小野市でも高齢化が進み免許返納者も増加傾向にある。市場地区のコープによる移動販売や下東条地区の公設コンビニと買い物支援を実施しているが、他地区でもスーパー・コンビニがないところもあり今後の課題で「おつかい MaaS」は参考になりました。

「行政 MaaS」では「マイナンバーカードの新規申請」「り災証明書申請受付」「選挙」等の業務に利用された。小野市でも、住民票等をコンビニで取得することができますが、コンビニのない地区もある。小野市の地形や利用頻度から考えると必要ではないかもしれないが、他の手立てが必要かと思えます。

## 【第2日】

茨城県境町

人口 23,874人 面積 46.59K m<sup>2</sup>

### ≪視察項目≫

英語教育（スーパーグローバルスクール授業）、現地施設見学

### ≪視察内容≫

**すべての子どもが英語を話せる町へ**  
～スーパーグローバルスクール事業の取り組み～

### 世界における大学ランキング（2023年）

東京大学・・・世界 39位

上位は英語圏の大学が独占！！

世界レベルの高い教育を受けるためには英語力が不可欠

### 英語力と年収の相関性

英語レベル「初級」に比べて「上級」では、年収 1,000 万円以上の人が約 4 倍となり、英語力が年収に影響する。

### 社会人の英語学習時間 現状

語学習得に必要な時間：2,200 時間

小学校～大学までの学習時間：約 740 時間＝必要な時間の 1/3

大人になって勉強する場合：2,200 時間－740 時間＝1,430 時間必要！！

1日1時間なら4年
1日3時間なら1年3か月

英語を話せるようになるカギは、  
**幼少期にいかに英語に触れられるか！**

### 英語教育に関する保護者意識と現状

60%が小学2年までに習わせたい ←→ 60%が習い事はしていない  
ギャップ

### スーパーグローバルスクールの特徴

町が全額負担 ⇒ 家庭の負担 0円

子どもが**英語力を身に付けられる**

しかも**通っている小・中学校で受けられる**



## 英検 受験料補助事業

- ・町内小中学校を**すべて英検会場に登録**
- ・英検受験料を町が負担
- ・受験率2倍以上増

## 英検 保有率の上昇

- ・小学6年生の英検5級保有率 ⇒ 75.5% (R5)
  - ・中学3年生の英検3級以上保有率 ⇒ 51.2% (R5)
- 約4人に3人の小学生が英検5級 = **中学1年生レベルの英語力**

## 境町の教育環境と今後の取組

現状 ⇒ 境町の1割の子どもが**町外**の中高一貫校に通う

↓ ↓ ↓

町外の学校に通う子どもを町の公立校に呼び込む

魅力ある教育環境が必要

## 子育て世代の移住を後押し

財政面・・・ふるさと納税 (48億円・6年連続 関東1位)

## 費用比較

境町 ⇔ 東京・・・高速バスが運行 90分で通学/通勤!!

境町が定期代を**半額負担** 定期代の自己負担 **月額21,000円!!**

小児専門クリニック **2023年オープン**

屋内型キッズランド・全天候型公園

## 子育て世代に先進英語教育を

### 英語移住最前線

全公立小・中学校に **ALT** を派遣!  
学校に英語を話す  
先生がいつもいる

長期休みは  
イングリッシュ  
サマースクールや  
イングリッシュキャンプ!

「使える英語」を  
義務教育内で習得!

小学校でも  
**ALT** 講師が英検@対策  
面接対策も!

英検@対策  
独自教材ですきま時間も  
学習できる

姉妹都市ホノルルで  
安心留学! ホームステイ

境町には、義務教育を卒業すると「英語が話せる」環境がそろっている





自動運転バス



S-WORK+KIDS  
屋内型キッズランド&リモートワーク



道の駅「さかい」



煙草栽培～サツマイモ(干し芋)へ

ふるさと納税+企業版ふるさと納税+補助金で施設建設





## 境町モデル 施設賃料 (R4実績) 9,191,7000 円の収入!!!

### 【所感】

境町では2018年よりスーパーグローバルスクール事業を実施。

「すべての子どもが英語を話せる町へ」を掲げて、様々な取り組みを実施されており、①小学校から中学校までの9年間を通じて、英語の授業時間が増加し英語力が向上している。②英語教育を通じて国際交流の機会が増え、子どもたちが異文化理解を深めることができる。③ アンケートでは「ALTとの学習は楽しいですか？」の問いに91%の児童・生徒が「楽しい」と答えており、子どもたちの学習意欲は高まっており、グローバル社会で活躍できる基礎知識が身につけていると思った。

スポーツ施設もたくさんあり、世界を目指すスポーツ選手が英語力を身に付けるための移住者も増えており、境町独自の子育て支援施策となっている。

小野市は、川島隆太教授の脳科学の知見を活かした「夢と希望の教育」で全国から多数の視察希望があり注目されている。また、外国語教育については、小中一貫して「英語教育」を充実し、国際社会で活躍できる力を育むことを目的に、H16年より様々な取り組みを実施し、R3年には、JETプログラムにより、全小中学校に9名のALTが配置されている。

それぞれの市町が、子どもたちのために特色ある教育を実施されていることは素晴らしいと感じました。

- ・境町では、地域商社の「株式会社さかいまちづくり公社」が中心となって、境町のメイン政策の「ふるさと納税」を軸とした政策実現のため、様々な取り組みをされています。
  - ・ふるさと納税 (R4年度59.5億円)、国の交付金・補助金 (10年間で約127.5億円)、企業版ふるさと納税 (7.9億円) を活用し多くの施設があり、施設賃料約1億円が町の収入となっている。
  - ・交流人口の増加に向けての観光行政改善プランで、道の駅さかいのリニューアルにより、売り上げ36.6億円!
  - ・利根川河川敷にテーマパーク「境リバーサイドパーク」「河岸の駅さかい」をオープンし千葉、埼玉等からの観光客や外国人観光客の増加。
  - ・「利根川大花火大会」の拡大! 30,000発、総観覧者数約30万人 (R4年度) 寄付金・栈敷席販売収入等1億3,931万円、町の補助金800万円
- 小野市の、ふるさと納税額は3.25億円 (2023年) なので、今後はふるさと納税返礼品の開発に力を入れていくのもいいのではないのでしょうか。

### 【第3日】

埼玉県加須市

人口 112,045人 面積 133.30K㎡

## ≪視察項目≫

コミュニティバス「かぞ絆号」について

## ≪視察内容≫

### 加須市コミュニティバス「かぞ絆号」導入の経緯

#### 加須市の現況

- ・平成22年3月23日 1市3町が新たに加須市として合併
- ・関東平野のほぼ中央部を流れる利根川中流域で高低差6mほどの平坦地
- ・市街地と農村地域が調和する田園都市

#### 加須市コミュニティバスの現況

- ・月曜日から土曜日（祝日含む）
- ・運休日は日曜日・年末年始（12月29日から1月3日まで）
- ・利用料金の支払いは、現金または利用券

#### デマンド型乗合タクシー 利用料金：1回300円（未就学児無料）

- ・北・中・南の3つのエリアに区分し、エリア内を乗合タクシーにより、ドア・ツー・ドアで、1時間以内に送り届ける。
- ・北エリア1台  
中エリア4台  
南エリア3台 } 1日10便
- ・市内に居住で利用者登録必要
- ・1週間前から30分前までの予約必要

#### シャトルバス 利用料金：1回200円（未就学児無料）

- ・市内を南北に縦断、1日4往復の計8便
- ・利根川以北を細かく巡回
- ・利根川を越えると主なポイントを経由し、済生会加須病院までを結ぶ
- ・誰でも利用できる

#### 循環バス 利用料金：1回100円（未就学児無料）

- ・加須駅南口を起終点とし、西循環コース・東循環コース
- ・1日10便
- ・誰でも利用できる

#### 事業に至る経過

- ・合併前の地域で異なるコミュニティバスの運行方式
  - \*旧加須市：循環バス
  - \*旧騎西町：デマンド型乗合タクシー
  - \*旧北川辺町・旧大利根町：運行なし

#### 事業の目的

- \*高齢者などの交通弱者の足の確保

\*病院や公共施設等へのアクセス利便性確保

\*公共交通不便地域の解消

### 新たなコミュニティバスの運行までの主な検討経過 (H22.12.1 設置)

- ・加須市地域公共交通会議 5回
- ・内部会議 7回
- ・地域別懇談会 3回
- ・アンケート調査

### 加須市コミュニティバス円滑運行協議会 (H24.5.2 設置)

- ・市内交通事業者 3社で構成する協議会
- ・市と協議会で「加須市コミュニティバス運行業務に関する基本協定」締結
- ・協議会は、市からの補助金を財源にコミュニティバス「かぞ絆号」を運行
- ・協議会は、市から委託を受け、デマンド型乗合タクシーの予約センターを運営

### 直近の運行見直し等

- ・令和4年1月 デマンド型乗合タクシー **6台から8台へ増車**  
シャトルバスの運行ルート変更
- ・令和4年6月 デマンド型乗合タクシーのエリア外乗り入れポイントに  
済生会加須病院を追加  
循環バスの運行経路を延伸し、済生会加須病院の停留所追加  
シャトルバスの運行経路を延伸し、済生会加須病院の停留所追加 ⇒ **済生会加須病院の追加で利用者増**
- ・令和4年10月 デマンド型乗合タクシーの AI による予約・配車システム  
導入
- ・令和5年2月 デマンド型乗合タクシーの予約アプリ利用開始  
(オンライン予約と車両位置情報確認サービスの開始)

### 国庫補助金の活用

国土交通省 {地域公共交通確保維持改善事業費補助金 (地域内フィーダー系統補助金)}

#### **【質問】**

**循環バス・シャトルバスは市外の人でも利用できるのか？**

誰でも利用可能

**デマンド型乗合タクシーはどこでも行けるのか？例えば、知合いの家等？**

**年齢制限・運転免許証の有無は？**

エリア内なら OK。塾に行くのに利用する人有。

年齢・運転免許証有無関係なく市内の住民ならだれでも利用可能。

**予約アプリの利用率は？**

高齢者 (70歳以上) の利用が多いので、10%アプリ 90%電話予約

**アプリ等の使い方セミナーを開催される予定は？**

今のところ開催予定ない。土日に家族がアプリ予約できる。これからの人はアプリも使えると思うので。

バス停までの移動は？

高齢者の多い北エリアはバス停が多い。デマンド型乗合タクシーを利用。

事業への市の補助金は？

利用者 10% 国の補助 5% 市の補助 85%



### 【所感】

加須市コミュニティバス「かぞ絆号」は、「デマンド型乗合タクシー」「シャトルバス」「循環バス」の総称。

事業の目的は、

- ① 高齢者などの交通弱者の足の確保
- ② 病院や公共施設等へのアクセス利便性確保
- ③ 公共交通不便地域の解消である。

市内を3つのエリア（北・中・南）に分割し、北エリア地区は東武日光線とシャトル

バス、デマンド型乗合タクシー1台。中エリアは民間バスとシャトルバス、デマンド型乗合タクシー4台。南エリアは民間バスと循環バス、デマンド型乗合タクシー3台でそれぞれのエリアに合ったコミュニティバスを運行されている。

デマンド型乗合タクシーは1週間前から予約が可能。オンライン予約は24時間いつでも予約可能で到着5分前にお知らせがある。電話予約は3人のオペレーターが対応。

「利用登録」されているため、とてもスムーズな対応ができていました。また、配車システム（コアエンジン）により最適配車がされ、改めてAIの機能に感心しました。

小野市でも、らんらんタクシーが運行されていますが、予約ができない、利用時間帯が重なり利用できない方もあると聞きます。また、行先も市の指定する場所となっていますが、加須市のデマンド型乗合タクシーは制限されていない（友人宅・塾等）のもいいと思いました。また、75歳以上の方で免許証保持者の方の利用も出来ればいいのではないかと思います。

今後、ますます高齢化が進み、高齢者の足の確保が必要となってくると考えます。地域にあった交通施策に期待します。

令和6年7月18日

小野市議会議長 高坂純子様

総務文教常任委員会 前田光教

## 総務文教常任委員会行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会行政視察の結果について、  
下記のとおり報告いたします。

### 記

#### 1 視察・研修実施日

令和6年7月2日（火）～ 令和6年7月4日（木）

#### 2 視察・研修議員（総務文教常任委員会）

山本悟朗（委員長） 宮脇健一（副委員長） 掘井ひさ代 高坂純子  
小林千津子 河島信行 前田光教



#### 3 視察・研修先及び内容

福島県いわき市 「いわき版 MaaS 推進プロジェクトについて」  
茨城県境町 「英語教育（スーパーグローバルスクール事業）について」  
埼玉県加須市 「コミュニティバス（かぞ絆号）について」

#### 4-1 調査・研修結果

##### [ 第1日目 ] 福島県いわき市「いわき版 MaaS 推進プロジェクトについて」

##### ●福島県いわき市

人口 318,803人 141,669世帯（令和6年6月1日現在）

面積 1,232.51km<sup>2</sup> 人口密度 258.9人/km<sup>2</sup>

財政力指数 0.79 実質公債比率 8.7% 将来負担比率 -.-%（令和4年度）

令和6年度一般会計当初予算 1,446.3億円

## ●MaaS とは

MaaS (Mobility as a Service) とは、複数の交通手段を最適に組み合わせ、検索・予約・決済などを一括で行えるサービスを意味する。

## ●いわき市の現状と課題

自家用車依存の構造で高齢化（免許返納）への対応、また、公共交通利用者が減少し市内循環バス15路線が廃止、公共交通による人口カバー率は全国平均55%に対し、いわき市は22.9%と低い状況である。

## ●交通イノベーションの推進

令和2年当初、デジタル技術の活用や、新たな移動手段の確保、移動の目的と連携した新たな地域サービスの構築により、市民生活の利便性や地域経済の活性化を図ることを目的に、いわき市の特性に応じたサービスを構築、「いわき版 MaaS 推進プロジェクト」を展開することとなった。

## ●実施 MaaS 事業

### ○観光 MaaS

観光やビジネス来訪者の利便性を考慮し、周遊性を高めるため、「タクシー配車アプリの導入」「キャッシュレス決済」「利用者特典クーポン」を実施している。(市内業者5社による共同運行) しかし、利用実績は2年5ヶ月経過して低迷、**現在は中止**している。

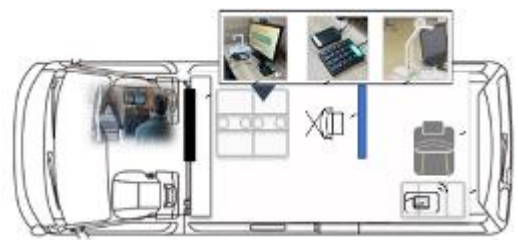
### ○おつかい MaaS

生活利便性の向上を図り、小売・物流のDX化が推進されている。月曜日～土曜日が利用可能で、配達料金は1個口25kgまで税込330円、1個口追加(25kg)毎に330円追加、水2L・酒類2ケースは1個口として配達を実施している。

今後は株式会社マルト単独での運営移行を計画している。

### ○行政 MaaS

中山間地域等における行政サービスの利便性向上や、スマートシティの推進を図ることを目的に、出張行政サービス「お出かけ市役所」を実施している。



#### (内容例)

- 1) 住民票、納税証明等申請受付・発行、マイナンバーカード新規申請業務
- 2) 市総合防災訓練
- 3) 罹災証明書申請受付(令和5年9月8日台風13号被害)
- 4) 移動期日前投票(令和5年県議会議員選挙)
- 5) オンライン窓口搭載(実証事業)

## 5-1 所感

いわき市は、広大な面積・人口減少・高齢化の進展、また、自動車分担率(約77%)で中核市では最も高いなど、極度の自家用車依存となっている。公共交通機関では、利用者の減少、担い手不足、ICT化やキャッシュレス化の遅れなどが顕著となっていたらしく、

市民の生活交通の維持確保や来訪者の二次交通の確保等、交通課題の解消がまちづくりの重要な課題として考えられていました。

そこで、ICTの活用や新たな移動手段の確保等により、移動の効率性や利便性、快適性の向上を図り、交通課題を解消するとともに、移動の目的となる地域サービスと連携した新たなサービスを構築することにより、市民生活の利便性向上や地域経済の活性化につながることを目的に、いわき市の特性に応じた「いわき版 MaaS」の構築に向けた取り組みを始められました。

移動ニーズに応じて複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせる検索・予約・決済等が一括で行えるサービス、また、観光や医療等、交通以外のサービスとの連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決に繋げるものでした。

ポイントとしては「乗合タクシー」「生活雑貨配達」「移動市役所」といった感じかと思っています。「生活雑貨配達」については民間企業の協力により、着実に成果を得、今後も展開が期待できるどころかと思っています。

### ●その他の関連事業

官民4者連携によるカーシェアリング実証（2019年3月～）、観光地を回遊するグリーンスローモビリティ実証事業（2018年10月～）等、環境省等とも連携し様々な取り組みをされています。

### ●何故か、潮風香るフラのまち？

いわき市では、半世紀前に常磐ハワイアンセンター（スパリゾートハワイアンズ）の誕生とともに「フラ」文化が生まれた。いわき市には、フラ教室が50以上あり、高校生のフラ全国大会であるフラガールズ甲子園が毎年開催され、フラを身近に感じている。

そもそも、ハワイアンセンターのきっかけは、地域周辺に常磐炭田が広がっており、時代が石炭から石油へと移行し始めた頃、石炭に代わるもので栄えなければという考えの基、石炭を掘る際は邪魔になっていた温泉を活用して、当時日本人が最も行ってみたい海外、ハワイに着目し、施設を1966年にオープンしたとのことでした。

6月議会はアロハシャツ

### ●ちょっと不思議？

行政 MaaS の車両は改造車、しかし、現時点では特殊車両ではなく、普通車登録を？ 次の行政 MaaS 号は2方のドア付きマイクロバスが理想とのことでした。



## 4-2 調査・研修結果

### [ 第2日目 ] 茨城県境町「英語教育について」& 各種現地視察

#### ●茨城県堺町



人口 23,874人 8,722世帯（令和6年6月1日現在）

面積 46.59km<sup>2</sup> 人口密度約 512.3人/km<sup>2</sup>

財政力指数 0.67 実質公債比率 12.8%

将来負担比率 64.2%（令和4年度）

令和6年度一般会計当初予算 147.9億円



## ●視察対応

株式会社さかいまちづくり公社が、有料（各11,000円）で視察対応、「すべての子どもが英語を話せる町へ」を提唱し、その狙いは「移住促進」、そのため、パッケージでの視察となる。

視察受け入れをひとつの商材とし、視察で外部からの情報を得、境町をPRし、総合的にふるさと納税へと繋げ、国庫補助（事業）と兼ね合わせ環境を充実させ、移住促進を唱えている。移住促進のひとつであり、核となるのが英語教育への取り組みであった。

## ●ふるさと納税で財政再建

平成29年4月に、総務省より全国の自治体へ向けてふるさと納税の返礼品の還元率を寄付額の30%以内にするよう通達があったが、境町では、その後のふるさと納税も順調に伸び続け、平成30年度は60億円（災害支援を含む）を突破した。

その後も、総務省の通達に沿うように対応を進め、町の新たな財源として活用している。

**（3万発打ち上げの利根川花火大会は100万円の寄付で棧敷席！）**

利根川花火大会では、小野まつりの花火業者も参画をしている。

境町では、橋本町長就任後ふるさと納税の活用を財政再建の柱とし、寄付金の確保に向けて工夫を行い、平成26年度から平成30年度の寄付額は合計で約109億円となった。特産品を生かした魅力的な返礼品だけではなく、ふるさと納税の寄付活用により、寄付者が「境町を応援したい！この町だから寄付したい！」と思える、魅力的なまちづくりを目指している。

## ●現地視察順路

道の駅さかい隣の茶蔵2階「境町の子育て支援・英語教育について」座学 →  
自動運転バス乗車（道の駅さかい～エコス～高速バスターミナル） →  
Citywabe Tokyo Sakaimachi → PFI戸建住宅視察 → 境町ニコニコパーク →  
境町アーバンスポーツパーク視察 → さかい子育て支援センター（S-WORK+KIDS）視察  
→ 道の駅さかい帰着

## ●移住に繋ぐ英語教育

東京都心から高速バスで90分、茨城県の南西部に位置する境町は、先進英語教育で話題の自治体となっている。人口は2万4千人ほどの町、一昨年は1,245人が転入（社会増）、英語教育を含めた手厚い子育て支援策に魅力を感じた移住者が増えている。

### ○ALTの充実

全小中学校に平均3人のALT（外国語指導助手 Assistant Language Teacher）  
小学校5校（生徒数1,234人） 中学校2校（生徒数573名）

### ○英語の授業時間

小学3年生から週に1時間の英語教育を実施している。境町では小学校6年間で210時間程度英語の時間数が多い。英語の授業は1年生から始まり週に1時間、3年生からは2時間、5年生からは3時間、中学生も他の自治体より1時間英語の時間数を増やしている。

## ○留学も目玉に？

また、少人数オンライン英会話教室や夏休みのサマースクールなども好評で、姉妹都市のハワイ・ホノルル市へ中学生15人程度を無償で派遣し、現地校への留学やホームステイプログラムを実行している。(ホノルルからも生徒受け入れ。)

## ○S-LACO (学童保育)

「さかいランゲージコミュニケーション」で、スタッフ全員が境町の小学校に勤務するALTで、英語も交えコミュニケーションを取ることで、日常的に英語と触れ合うことができる学童保育も実施している。

## ○英語検定

**(目標) 小6で3級！ 中3は2級を！**

小学6年生の英検5級の保有率は75.5%、中学3年の3級保有率は52.5%となっている。これら受験費用は境町が負担している。

## 5-2 所感

英語教育を題材として訪問したが、結果として移住促進の中の英語教育視察であり、移住促進を狙いとする施策の中のひとつ、また、核となるのが英語教育でありました。境町は人口規模等からも特化した魅力的な施策であると感じました。

財政状況の悪い時代を経て、ふるさと納税等の積極的展開から歳入増を図り、一定の目的を立て、ALT招聘のための姉妹都市協定を結び、現地教員資格を有し、事業補助金を確保し、現在は各校に3名程度のALTを配置し、興味を持てる内容でした。

加えて、BMXやサーフィン等々、スポーツの環境を整え、移住に向けた取り組みは関心を持ちました。一方で、ゼロサム移住を実行しており、その点については少々疑問も感じたところです。

## ●その他事項 ①

### ○株式会社さかいまちづくり公社

設立理念「**地域が稼げる力を身に着ける**」

資本金50万円 (境町50%・道の駅さかい共栄会50%)

今期売上目標(36億3千万円) 人員体制(取締役2名・正社員41名・他131名)

### ○境町(令和4年~令和9年)財政のスケルトン

各施設・基金等の予測を冊子化(配布)

### ○移住者戸建住宅

家賃5万8千円で**25年住み続けると戸建・土地を譲渡**

### ○無料化

給食費・英語検定・ホノルルホームステイ・沖縄民泊・20歳までの医療費・第2子保育料等々の無料化

### ○奨励金・補助金

初めて住む方(町民税相当額の50%)・子育て・新婚世帯(住宅取得で50万円)

転入者(住宅取得で固定資産税相当額)・新婚世帯引越し費用補助(最大60万円)

学生（高速バス定期券半額補助）・S-ワーク+キッズ（利用料無料）

## ●その他事項 ②

- さかいまちづくり大学院（受講料110万円）
- 姉妹都市① フィリピン共和国マリキナ市（平成29年5月18日協定）
- 姉妹都市② ハワイ州ホノルル市（令和3年11月17日協定）
- 友好都市① 佐賀県三養基郡みやき町（平成28年9月26日協定）
- 友好都市② フランス共和国モンペリエ市（令和5年9月28日協定）
- 友好交流都市① 福島県伊達郡川俣町（平成31年2月28日協定）
- 友好交流都市② 静岡県駿東郡小山町（令和5年9月19日協定）
- 姉妹校提携① ハワイ州ホノルル市アリアマヌ中学校（令和元年12月20日協定）
- 姉妹校提携② ハワイ州ホノルル市ノエラニ小学校（令和4年5月12日協定）
- 友好交流（道の駅さかい）
  - 沖縄県国頭村 道の駅ゆいゆい国頭（平成30年4月24日協定）
  - 鳥取県岩美町 道の駅きなんせ岩美（令和5年7月16日協定）

## 4-3 調査・研修結果

### [ 第3日目 ] 埼玉県加須市「コミュニティバス（かぞ絆号）について」

#### ●埼玉県加須市

人口 112,045人 6,925世帯（令和6年6月1日現在）

面積 133.30km<sup>2</sup> 人口密度約 840.5人/km<sup>2</sup>

財政力指数 0.73 実質公債比率 5.1% 将来負担比率 -.-%（令和4年度）

令和6年度一般会計当初予算 427.2億円

#### ●かぞ絆号



加須市のコミュニティバス「かぞ絆号」は、行政区域内をエリアとし、病院やスーパー、公共施設、駅のような交通結節点などへの身近な市民の足として、平成24年10月から、デマンド型の乗合タクシー、シャトルバス、循環バスの3つの運行方法を組み合わせた方式により運行している。運行日は月曜日～土曜日とし、日曜日、12月29日～1月3日には運行をしていない。



- ・事前登録（申請）
- ・完全予約制（7時00分～16時30分迄）
- ・1週間前～当日30分前迄予約可
- ・デマンド型乗合タクシーの利用料金（一人1回300円・小学生無料）
- ・循環バス一人1回100円
- ・シャトルバス一人1回200円（就学前無料）

#### ●運行方式の特徴

コミュニティバス「かぞ絆号」は、幹線、支線、結節点という考え方を持って運行体系を構築し、原則として市内全域をデマンド型乗合タクシー、シャトルバス、そして循環バ

スという 3 種の運行方式を実施している。

### ○幹線（シャトルバス）

幹線は、公共交通の軸として、市内の速やかな移動や、市の一体性の醸成を図るために設定しており、この役割を担うものとしてシャトルバスを運行している。シャトルバスは、ワンボックス車両を使用し座席数 6 席、車椅子 1 台が乗車可能。

### ○支線

幹線では対応できない地域を、面的または線的にきめ細かくカバーするために設定し、この役割を担うものとしてデマンド型乗合タクシー及び循環バスを運行している。

### ○デマンド型乗合タクシー

デマンド型乗合タクシーは、コミュニティバスの中心として導入した乗合のタクシーで、ワンボックス車両を使用し座席数 8 席（車椅子席無）、予約受付、配車、運行までの一連の流れを効率的に実施するため、予約受付・配車システムを導入している。



電話一本で、自宅から市内の行きたいところまで移動できる。市内を利根川以北の北エリア、利根川から東武伊勢崎線の間の中エリア、そして東武伊勢崎線以南の南エリアの 3 つのエリアに分け、それぞれのエリアで運行しており、1 日の運行便数は各 10 便、料金は 300 円である。

### ○循環バス

循環バスは、デマンド型乗合タクシーの補完を目的に、座席数 11 席、立って乗車する方を含め、乗車定員 36 名の小型バス車両で、1 日の運行便数は 10 便、料金は 100 円。黄緑色の小型ノンステップバスで、車椅子の乗車が可能である。

### ○結節点

結節点は、3 つのエリア間や各コミュニティバスを連携するために設定しており、加須駅、花崎駅、道の駅童謡のふる里おおとねの 3 箇所に設定している。

## 5-3 所感

エリアを 3 つに区分するなど、その地域に必要とされる運行方式であり、らんらんバスも同様であるが、市民の声を大切にしている感がありました。

また、予約時のオペレーターの気配りが、これらの交通政策にもたらす「優しさ」のようにも感じました。何となくではありますが、これらの施策は、人と人の繋がりが事業として継続するのに大切であると感じるところです。運営側は、「やってあげてる」、「やらされている」では歪が生まれ、一方市民も「やってもらって当然」等の考えでもいけない事業であるとオペレーター室で感じました。互いに感謝しながらの対応が印象的でした。

らんらんバス、らんらんタクシーはいかがでしょう？

令和6年7月18日

小野市議会議長 高坂純子 様

総務文教常任委員会  
高坂 純子

## 行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会 行政視察の結果について、  
下記のとおり報告いたします。

### 記

**1 視察実施日** 令和6年7月2日（火）～令和6年7月4日（木）

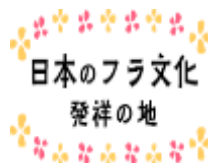
**2 視察メンバー** ◎山本悟朗 ○宮脇健一  
掘井ひさ代・前田光教・高坂純子・小林千津子・河島信行

### **3 視察先及び調査内容**

- (1) 福島県いわき市（人口：318,803人、面積：1232.51K㎡）  
・いわき版MaaS推進プロジェクトについて
- (2) 茨城県猿島郡境町（人口：23,874人、面積：46.59K㎡）  
・英語教育（スーパーグローバルスクール事業）現地施設見学
- (3) 埼玉県加須市（人口：112,045人、面積133.30K㎡）  
・コミュニティバス「かぞ絆号」について

### **4 調査結果**

【第1日】福島県いわき市



《視察項目》

いわき版MaaS推進プロジェクトについて

《視察内容》

## 1 いわき市の現状と課題

- ・人口減少・高齢化の進展（2020年⇒高齢化率 31.8%）
- ・自家用車依存の都市構造（公共交通利用者の減少）

※人口減少⇒利用者の減少⇒鉄道・バスの運行本数の減少⇒更なる利便性の低下



★令和6年4月のダイヤ改正でいわき市に本社がある新常磐交通が市内山間部等を走る15路線と市内で運行する133系統のうち、約半分の64系統を廃止、これに合わせて187便を減便とすることを決定！



◎スマート交通モデル都市の構築！！

次世代交通システムによる交通イノベーション推進事業！！

## 2 いわき版MaaS（R2年度当初）

14市町が合併した広域多核分散型の都市構造で自家用車依存が高いため一般的なMaaSの活用ではなくいわき市の特性に応じたサービスを構築する

※県タクシー協会いわき支部・MONE Technologies（株）・いわき市官民3で「MaaS推進に関する連携協定」締結し取り組みを推進

### ○観光MaaS（人の移動）

#### ○おつかいMaaS（モノの移動）

高齢者等の買い物弱者を支援し、生活利便性の向上を図るため地元のスーパーと連携し、宅配サービス等の実証を行う（実施期間：R3.11～）（R5.7より中山間地域へエリア拡大）  
（R6.3以降は民間での実施）

事業開始以降、口コミ等による拡大やグループホーム等の大口顧客の獲得により、順調に売り上げは拡大

#### ○行政MaaS（サービスの移動）

中山間地域等における行政サービスの利便性向上を図る為、遠隔相談機能などを搭載した車両を活用し、出張行政サービス「お出かけ市役所」の実証を行うもの（R2.10～実施）

・出張行政サービス：住民票・税証明書等の発行：マイナンバーカード新規申請：各種相談業務：選挙：総合防災訓練での活用等



### 《所感》

朝散策してみた。

JRいわき駅はとても立派で周辺も開発されショッピングモール等もある。なぜか、人通りが少ない。駅員さんに聞くと車社会の街なので駅周辺の店は夜遅くまで開けていても売り上げには繋がらないとのこと。いわき市は自家用車依存の都市構造であり、自動車分担

率が76.6%と中核市でトップである。公共交通機関徒歩圏カバー率も22.9%と全国(55%)に比べ著しく低い。まさに車社会である。今後高齢ドライバーが増え、バスが減便となればどこよりもいち早く対策に取り組もうとされたことが理解できる。またこのことから一般的なMaaSの活用はなじまないと判断されたようだ。

平成30年度から市次世代交通システム研究会が始まり、MaaS研究会・スマートモビリティチャレンジ推進協議会、カーシェアリング官民共創実証事業等々行われ、今年度より次世代交通システム社会実装(実証から実装)へと入るときに視察を行うことができ今後の展開を注目させていただきたい。

公共交通の維持・確保、交通弱者の移動手段の確保、来訪者等の二次交通の確保、拠点間の交通ネットワークの強化、自家用車に依存しない社会の構築は全国的に大きな課題だと思う。

なお、地元のスーパーさんとの強い絆のおつかい MaaS。選挙投票にも使われた住民に寄り添う行政MaaS。より分析をして参考にさせていただく部分が多く感じられた。

## 【第2日】茨城県猿島郡境町

### 《視察項目》

英語教育：スーパーグローバルスクール(SGS)事業について

### 《視察内容》

★視察パッケージ：(株)さかいまちづくり公社が担当

・道の駅さかいで見学と座学→自動運転バス乗車体験→アーバンスポーツパーク・

S-wave等見学→車窓より定住促進戸建住宅・干し芋製造工場・境町地域産業研究開発拠点施設 S-Lab 4th(鰻・物流)等眺める→さかい子育て支援センター見学



### スーパーグローバルスクール(SGS)事業

境町では、魅力ある町づくりの一環として平成30年度から先進的な英語教育「スーパーグローバルスクール(SGS)事業」を実施。

複数のALTが常駐し、町独自のテキストを活用し、小学校1年生から日常的に英語に慣れ親しみ、小中学校9年間を通して英語力の向上を図り、英語を用いたコミュニケーション能力の向上、グローバル社会で活躍できる人材の育成のため、特別の教育課程を編成して教育を実施している。

◎町立の全小中学校にフィリピン人英語講師を招聘

[フィリピンの英語人口は世界3位！！](#)

#### ① ALT(外国人英語教師)の派遣

・小学校：13人・中学校：8人・公設保育園：2人・教育委員会：1人

※JET（暗記や読解を中心とした従来型英語学習の成果ではなく、英語運用能力を測定することを目的に開発されたテスト）も行っている

## ②学習開始年齢の早期化・学習時間の確保

		文部科学省・教育課程		境町	
		名称	時数	名称	時数
小学校	1・2年			SGS タイム (英語活動) ※3～6年生は教育課程特例校	年間 35 時間 (週 1 時間) (裁量)
	3・4年	外国語活動	年間 35 時間 (週 1 時間)		年間 3 5 時間 (週 1 時間) (総合)
	5・6年	外国語	年間 70 時間 (週 2 時間)		年間 35 時間 (週 1 時間) (総合)
中学校	1～3年	外国語	年間 140 時間 (週 4 時間)	SGS タイム (総合・裁量)	年間 35 時間 (週 1 時間) (総合・裁量)

## ② 教材

- ・小学校：Switch On(DVD)(週 3 回 10 分程度) We can book  
英検デジタルコンテンツ (5・6年生のみ)
- ・中学校：・オリジナル教材 (・既習表現の定着・英検学習・発信力向上・国際交流)  
・英検デジタルコンテンツ

## ④英検受験料の全額補助／年 1 回 (5 級 2, 500 円～2 級 6, 400 円まで)

- ・中 3・小 6 は皆、他学年は希望受験 (約 4 人に 3 人の小学生が英検 5 級)
- ・町内小中学校をすべて英検会場に登録 (自分の通う小学校で受験)
- ・英検の活用・TOEIC への挑戦 ・進路や職業の選択肢の広がり
- ・ハワイ州立アリアマヌ中学校と姉妹校締結→教員や中学生の交流 ホームステイなど

## ○境町だけの特別授業

- ・小学生イングリッシュサマースクール (3 日間参加費無料) : レッスンで学んだ英語を姉妹都市ホノルルの児童とのオンライン交流で使う
- ・中学生イングリッシュサマースクール (3 日間参加費無料) : 英検対策特訓リーディング・リスニング+さらに 1 対 1 で二次面接対策

## ◎境町の教育環境と今後の取り組み

- ・境町の 1 割の子どもが町外の中高一貫校へ通う現状から魅力ある教育環境が必要
- ・境町には、義務教育を卒業すると「英語が話せる」環境がそろっている！！



・境町の子育て転入人口は増加傾向。子育て世代に先進英語教育で移住を後押し

## ◎ 効果と課題について

実態を適切に把握した取り組みを実施したことで、多くの児童が楽しみながら英語活動に参加し、意欲的に取り組んでいる。また、アルファベットを読んだり書き写したりすることができるようになり、話すことに加え、英語でできることが増えてきた。保護者の方のアンケート結果からは、取り組みが保護者の方にも広く周知され、多くの方が取り組みの必要性を感じていることが分かる。一方、自分の気持ちや考えを伝えることや、学習したことを日常生活に生かすことに課題がある。



## 《所感》

先ず、財政難だった境町を立て直すことから始まったとの説明から始まった座学。

まるでプロジェクトXのように橋本町長の手腕とリーダーシップに驚かされた。

① 財政再建②人口増加政策③ひとの創生④ふるさと納税（R4：59億円）

⑤基金残高（R4：43.1億円見込み）

普通は財政改善するため補助金のカット、職員の給与削減などと考えがちだが、境町は収入を増やす施策へ舵を大きく取られたことが活気付いている町と感じる。

先ず、私たちの視察対応をしていただいた（株）さかいまちづくり公社の存在は大きいと感じた。「地域商社」というあまり聞きなれない言葉だが、境町のメイン施策である「ふるさと納税」を軸とした政策実現のため、さまざまなまちづくりの取り組みを行う公社を作るシステムに感心した。

今回は英語教育について学んだが、視察パッケージの中で見聞きした全てのものが、企業誘致であったり、子育て支援であったり観光施策であったりと繋がっていた。即ち境町に人を呼び込む施策になっている。子育て世代には手厚い英語教育施策はアンケートにもあったが満足されていて若い世代の移住には魅力だ。高校大学と進学していくときの成果のデータはこれからだが将来的に子ども達がどのように羽ばたいていくのか期待しながら注視したい。

## 【第3日】茨城県加須市

### 《視察項目》

コミュニティバス「かぞ絆号」について



### 《視察内容》

#### 1. 加須市の現況

関東平野のほぼ中心部を流れる利根川中流域にあり、高低差 6mほどの平坦地。東西と南北にそれぞれ約 16 kmの広がりを持つ市街地と農村地域が調和する田園都市。

#### 2. 加須市コミュニティバス事業に至る経緯

平成 22 年 3 月 1 日 3 町が加須市として合併。それまでそれぞれの市町で異なるコミュニティバスが運行していたため、合併を機に新加須市全域を対象とした新たなコミュニティバスを導入することにした。

### 3. 事業の目的

- ・高齢者など交通弱者の足の確保
- ・病院や公共施設等へのアクセス利便性確保
- ・公共交通不便地域の解消

### 4. 新たなコミュニティバスの運行までの主な検討経過

- ・加須市地域公共交通会議（5回）
- ・内部会議（7回）
- ・地域懇談会（ワークショップ等3回）
- ・市民アンケート

○「加須市地域公共交通計画」（令和4年3月策定）

### 5. 加須市コミュニティバス円滑運行協議会

- ・市内交通事業者3社で構成する
- ・「加須市コミュニティバス運行業務に関する基本協定



書」を

加須市と締結

- ・協議会は、市からの補助金を財源にコミュニティバス「かぞ絆号」を運行
- ・協議会は、市からの委託を受け、デマンド型乗り合いタクシーの予約センターを運営

### 6. 運行開始

- ・平成24年10月1日
- ・「デマンド型乗り合いタクシー」「循環バス」「シャトルバス」の3つの運行

### 7. 加須市コミュニティバスの現状

- ・運行：月曜日～土曜日（祝日含む）
- ・運休：日曜日・年末年始（12月29日～1月3日まで）
- ・利用料金の支払い：現金または利用券：どの運行形態でも利用できるお得利用券1セット1,000円（11枚つづり）あり



① デマンド型乗り合いタクシー：利用料金1回300円（未就学児無料）

加須市内を利根川と東武伊勢崎線を境に、北、中、南の3つのエリアに区分し、そのエリア内を乗り合いタクシーにより、ドア to ドアで1時間以内に送り届ける。

北エリア1台、中エリア4台、南エリア3台の車両が、それぞれ1日10便が運行している。市内に居住する方に限り、事前の利用者登録と利用したい便の1週間前から30分前迄の利用予約が必要。

② シャトルバス：利用料金1回200円（未就学児無料）

市内を南北に縦断する形で運行。1日4往復計8便が運行。

新古河駅西口から北川辺地域（利根川以北）を細かく巡回し、利根川を越えると主なポイントを経由し、済生会加須病院までを結ぶルートになっている。市内外どなたでも利用できる。

③ 循環バス：利用料金1回100円（未就学児無料）

④加須駅南口を起終点として、人口等が集中し、一定の経済的な需要が見込まれる地域を中心に、加須駅から西へ向かう西循環ルート

⑤加須駅から東の花崎駅方面へ向かう東循環コース

## 8. 国庫補助金の活用

- ・国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系補助金）」

### ★課題として

- ・利用車北エリアとシャトルバスの利用が少ない
- ・加須市より民間バス会社に補助金 1,000 万円の補てん
- ・車は業者側提供なのだが負担金も出している

## 9. デマンド型乗合タクシーの利用登録・予約について

### ○利用登録の申請方法

#### 1. 市役所窓口へ紙で提出（オンライン予約利用なし）

所定の利用登録申請書に住所・氏名・性別・生年月日・電話番号を記載し、加須市役所政策調整課または各総合支所地域振興課へ提出。

郵送で提出の場合、政策調整課宛に送る。

※利用登録申請書 1 枚で 7 名まで記入できるので、家族全員での登録をお勧めしている。

#### 2. 加須市 HP から電子申請（オンライン予約利用なし）

#### 3. アプリまたは Web でアカウント登録（オンライン予約利用希望の方）

オンライン予約のアプリまたは Web でアカウント登録をすることにより、デマンド型乗合タクシー利用登録ができると同時に、オンライン予約をすることが可能。

### ○デマンド型乗合タクシーの予約方法【利用登録済みの方】

予約センターに電話またはオンラインで利用予約を行う。

### ○予約センターの流れ

お客様予約Tel⇒オペレーター 3 名が対応⇒日時等の調整は AI システム⇒オペレーターより確認とノート記載（引継ぎ等のため）



### 《所 感》

まさに今大きな問題となっている交通弱者への取り組み。公共交通のあり方。一つ一つ研修の中でうなづく内容だった。座学の後オペレーションセンターを見学させていただいた。丁度、高齢者の方が病院へ行くためのデマンド型乗合タクシーの予約をキャンセルして再予約を行う場面だった。

事前登録を行っていることによって電話のコールと共に画面には住所と名前が掲示され予約日時・場所もわかるようになっていた。スタッフの方の心のこもったやり取り（画面に掲示された名前を呼びながらゆっくり話しかける）と AI システムで瞬時に次の予約状況がわかり、スムーズに再予約ができる。感心することばかりだった。

高齢者の方々やはり電話と言うツールが欠かせない。勿論 AI システムの導入で対応も早い。小野市でできるだろうか・・委員会の振り返り研修でのテーマの一つとして取り上げてみたい。

令和 6年 7月 18日

小野市議会議長 高坂純子様

総務文教常任委員会  
小林千津子

## 行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会による行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

### 記

1 視察実施日 令和6年7月2日(火)～令和6年7月4日(木)

2 視察メンバー

委員長 山本悟郎 副委員長 宮脇健一  
委員 掘井ひさ代 前田光教 高坂純子 小林千津子 河島信行

3 視察先及び調査内容

- (1) 福島県いわき市 (人口：約31万8千人、面積：1,232.51k㎡)  
いわき版M a a S推進プロジェクトについて
- (2) 茨城県境町 (人口：約2万3千人、面積：46.59K㎡)  
英語教育 (スーパーグローバルスクール事業)、現地施設見学
- (3) 埼玉県加須市 (人口：約11万2千人、面積：133.30K㎡)  
コミュニティバス「かぞ絆号」について

**【第1日】7月2日(火) 13時30分～15時**

《視察項目》

いわき版M a a S推進プロジェクトについて

## 《視察内容》

### 1. MaaS とは=Mobility as a Service

地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やその以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスである

#### ○いわき市公共交通における現状と課題について

- ・人口減少=2015年約35万人→2040年約25万人
- ・高齢化率=2015年28.4%→2040年41.9%
- ・公共交通利用者の減少=鉄道および路線バス
- ・自家用車依存の都市構造=自動車分担率が中核市でトップ
- ・公共交通機関徒歩圏カバー率の低下=全国平均55%、いわき市22.9%

公共交通の利用者の減少や高齢ドライバーの増加、人口減少→利用者の減少→鉄道・バスの本数減少→更なる利便性の低下といった悪循環の懸念

#### ・エリア別の課題

中心市街地=住民、来訪者両方にとって交通の利便性が低い

観光地=駅等の交通結節点から観光地までの移動手段が少ない

郊外部・ニュータウン=高齢化による事故が懸念

中山間地域=路線バス等の廃止などで自家用車に依存している

### 2. 取り組みの方向性

目的 デジタル技術の活用や新たな移動手段の確保、移送の目的と連携した新たな地域サービスの構築により、市民生活の利便性向上や地域経済の活性化を図る

※いわき市は14市町が合併した広域多核分散型の都市構造ゆえに広大な面積で自家用車依存が高いために公共交通の利用が少なく、一般的なMaaSの活用になじまないため、いわき市の特性に応じたサービスを構築されている

推進体制=令和2年11月、県タクシー協会いわき支部、MONET Technologies(株)、いわき市の官民3社で「MaaS推進に関する連携協定」を締結

#### 実施事業

##### ○ヒトの移動=観光MaaS(タクシー配車アプリ)

実証結果・観光タクシーの利用状況が低い

(コロナ禍などの社会的要因が影響)

課題反省・予約しても配車が遅い、電話予約や駅待機タクシーの利用と利便性が高く、アプリではそれ以上の利便性は向上できなかった

今後 ・観光タクシー事業→廃止

・乗合タクシー事業→継続

##### ○モノの移動=おつかいMaaS(地元スーパーの宅配サービスシステム)

実証結果・ロコミによる件数の拡大や、グループホームなどの大口顧客の獲得により、売上は順調

課題反省・中山間地域では売上はあまり伸びていないが、地区の社会福祉協議会と連携の上、細かく広報を実地し、他地域への拡大も視野に検討中

今後 ・協力していただいた民間企業による単独運営へ移行

○サービスの移動＝行政 MaaS（出張行政サービス「お出かけ市役所」）

目的 ・高齢者による交通事故の増加が社会的問題となり、運転免許証の自主返納等が進む中、中山間部地域等において自家用車に代わる移動手段の確保が困難、生活の支障をきたす恐れが生じ、行政サービスが地域に出向くことで市民の利便性の向上を図る目的として実施。

実証結果・ほとんどの住民が好意的

課題反省・オンライン申請のため、オペレーターとのやり取りは問題なしだが、機器操作のフォローがかかせない

3. 関連事業について

○官民4社連携によるカーシェアリング実証

○国土交通省「グリーンスローモビリティ」

○環境省「グリーンスローモビリティを活用した次世代交通システム実証」など、現在も実証実験中

行政 MaaS 車両見学

車種 トヨタハイエースワゴン グランドキャビン

定員 10名

車載装備折り畳みテーブル3台 キャビネット1台（レイアウト可能）



## 《所 感》

昭和 41 年に 14 市町村が合併、市制施行 50 周年を迎えられる、中核市いわき市、市の面積 1231.35 km<sup>2</sup> 広大な面積、人口減少（2015 年約 35 万人 2040 年約 25 万 4 千人） 高齢化率（2015 年 28.4% 2040 年 41.9%）と高齢化の進展、自動車分担率（約 77%）中核市では最も高い自家用車依存となっている。公共交通機関では利用者の減少、担い手不足、ICT 化やキャッシュレス化の遅れなどが顕著となり利便性向上や地域経済の活性化につなげることを目的にいわき版 M a a S を立ち上げられたと説明を受けました。

山間部の多い地域では地元のスーパーと連携し、宅配サービス等の実施をされ高齢者の買い物弱者を支援とのことでした。

小野市においても福祉サービスとしてらんらんバスの導入や、社会福祉協議会が高齢者へのお弁当配達に取り組んでおり、下東条地区のふれあいマートもその一つである。なくなったときの不便を考え、地域の住民が参加し見守り、今後を引き継いでいくことが私たちの使命と考えます。

## 【第 2 日】 7 月 3 日（水） 14 時 00 分～15 時 30 分

### 《視察項目》

英語教育（スーパーグローバルスクール事業）、現地施設見学

### 《視察内容》

#### 1・ポイント

境町の英語教育は、人口減少対策の定住プランの中の一つの重点施策であり、「子育て支援日本一」を目指している  
「すべての子どもが英語を話せる町へ」と題して英語教育に関して経済的支援や、環境の整備などに力をいれている

#### 2・充実した教育環境（先進英語教育）

- スーパーグローバルスクール事業として町が学習経費を全額負担
- フィリピンと国際交流
  - 町立の全小・中学校にフィリピン人英語講師を招聘
  - 相互人材派遣、短期留学、ホームステイ
- 使用するテキストに工夫
- 外国人英語教師数は全国の公立校の約 4 倍
- 英検受験料補助事業＝受験料を町が全額負担
- 町内小中学校をすべて英検会場に登録
- 境町だけの特別授業の実施（イングリッシュサマースクール）
- 英検対策動画教材の無料配布

#### 3・次のステージへの取り組み

- 「英語で話す」を毎日の当たり前
- 文科省規定時間に加えて、休み時間に英語でゲームをしたり、毎日英語であいさつ運動など各学校と ALT 講師のアイデアで英語に触れる時間を増やす
- コロナ禍のステイホーム対策として ZOOM によるオンライン教室と YouTube 配

信によるオンライン英語学習を開始  
○境町モデルの先進英語教育事業が、各地に展開中  
(大洗町、つくばみらい市、神奈川県松田町)

#### 4・現地視察

自動運転バス試乗 みちの駅さかい～エコス  
境町ニコニコパーク アーバンスポーツパーク視察  
さかい子育て支援センター視察

#### 《所 感》

埼玉県と千葉県に隣接し古くは水運を生かした文化交流の場として栄えた「河岸の町」自治体初の自動運転バスの運行など高齢者にも子育て世代にも快適に暮らせる町として注目されている。

建築家、隈研吾氏が建てられた道の駅さかいにお邪魔して「㈱さかいまちづくり公社」の方から案内を受ける。地域の物産など販売されています。

関東1位のふるさと納税の寄付額(48億円)とのことでした、子育て支援にも手厚く県外より若い方の移住が増えているそうです。

利根川の河川敷で行われる花火大会が有名で関東最大級30,000発が打ち上げられました。子育て支援日本一、英語移住しませんかとの文句で移住促進に力を入れて居られる。

アーバンスポーツパーク視察中、利用上のマナー「1、ヘルメット着用2、周辺は全面禁煙、3、飲酒禁止」と義務づけられている中、競技用の自転車を借りて乗り協議会場を走行し転倒、救急車で搬送されるなどの事態が発生しました。幸いにして大事に至らずに終わりましたが、危険余りができなかつたことを恥ずかしく思います。

担当者に迷惑を掛けました事をお詫び申し上げます。



【第3日】7月4日(木) 10時00分～11時30分

《視察項目》

コミュニティバス「かぞ絆号」について



## 《視察内容》

### 1・事業に至る経過

加須市は、平成22年に1市3町での合併に際し、合併前の地域で異なるコミュニティバスの運行方式がとられていたことに対して、新加須市全域を対象とした新たなコミュニティバスを導入することを合意し、平成24年10月から「かぞ絆号」を導入

### 2・事業の目的

- (1) 高齢者などの交通弱者の足の確保
- (2) 病院や公共施設等へのアクセスの利便性の確保
- (3) 公共交通不便地域の解消

### 3・コミュニティバスの現況

○運行日＝月曜日から土曜日（祝日含む）

○運休日＝日曜日、年末年始（12/29～1/3）

○利用料金＝現金または利用券（どの運行形態でも使用可）

○運行形態

#### 1) デマンド型乗合タクシー 利用料金1回300円

加須市内を3つのエリアに区分し、そのエリア内を乗合タクシーにより、ドアツードアで1時間以内に送り届ける。合計8台の車両で1日に10便が運行。利用者は市内に居住する方で、事前の利用者登録と利用したい便の1週間から30分前の利用予約が必要。主に高齢者対策

#### 2) シャトルバス 利用料金1回200円

市内を南北に縦断する形で運行、1日4往復の計8便。

駅から市内の交通不便地域を28か所と細かく巡回し、済生会加須病院までを結ぶルートで誰でも利用可能

#### 3) 循環バス 利用料金1回100円

加須駅南口を起点に人工島が集中し一定の経済的な需要が見込まれる地域を中心に西東各ルートを1日10便運行し、誰でも乗れる。

上記はすべて、未就学児は無料

### 4・新たなコミュニティバス運行までの主な検討経過

○加須市地域公共交通会議

平成22年12月1日設置、平成24年2月までに計5回開催

→「加須市地域公共交通総合連携計画」策定（平成24年3月）

○内部会議は計7回

○地域別懇談会（交通不便地域の住民を対象としたワークショップ）3回

○アンケート調査

- ・循環バス利用者に車内で実施
- ・循環バス利用者が多い施設で実施
- ・地域別懇談会委員への配布・回収で実施
- ・15歳以上の市民3,000名を無作為抽出で実施

- 5・加須市コミュニティバス円滑運行協議会
  - 平成24年5月設置
  - 市内交通事業者3社で構成する協議会
  - 市と協議会で「加須市コミュニティバス運行業務に関する基本協定書」を締結
  - 協議会は市からの補助金を財源にかそ絆号を運行する
  - 協議会は市からの委託を受けデマンド型乗合タクシーの予約センターを運営する
- 6・運行開始
  - 平成24年10月1日
- 7・直近の運行見直し等
  - 令和4年1月 デマンドタクシーを2台増車  
シャトルバスの運行ルートが不便地域を巡回するように変更
  - 令和4年6月 デマンド型乗合タクシーのエリア外の乗り入れポイントを追加、循環バスの運行経路を延伸、シャトルバスの運行経路を延伸し、停留所ポイントに加須病院を追加
  - 令和4年10月 デマンド型乗合タクシーのAIによる予約・配車システムを導入
  - 令和5年2月 デマンド型乗合タクシーの予約アプリ利用開始
- 8・国庫補助金の活用
  - 国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」  
(地域内フィーダー系統補助金)

## 《所 感》

「かそ絆号」はデマンド型乗り合いタクシー、循環バス、シャトルバスの3つの運行方法を組み合わせた方式の総称です。

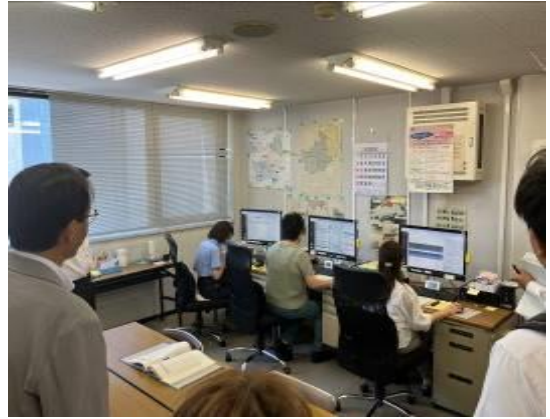
特徴は幹線、支線、結節点という考え方で運行体系を構築して市内全域を運行。原則として行政区域内をエリアとして、病院やスーパー、公共施設、駅等身近な市民の足として運行されています。最後に案内された乗り合いタクシーの予約センターでは、利用登録のあった方からの電話での受付現場（3人のオペレーターが受け付けておられる）を見学致しました。予約は1週間前から当日の30分前まで受け付け、1回300円とのお話でした。オンライン予約は365日24時間受付とのことでした。同方向、同じ日時であれば近所乗り合わせて使われるとの話でした。

1日10便、座席数8席、車いす乗車不可、未就学児無料、乗り継ぎを行う場合には300円の追加、高齢者対策として大変良いアイデアと考えます。

小野市にもらんらんタクシーがありますが免許を返納していなければ利用できないなど制約があります。75歳以上の高齢者はだれでも利用できるようにしていくべきではと考えます。



議場にて



オペレーター室見学

令和6年7月17日

小野市議会議長 様

総務文教常任委員会 委員  
河島 信行

## 行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会 行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

**1 視察実施日** 令和6年7月2日（火）～令和6年7月4日（木）

### **2 視察メンバー**

総務文教常任委員会

委員長 山本悟朗 副委員長 宮脇健一

委員 掘井ひさ代 前田光教 高坂純子 小林千津子 河島信行

### **3 視察先及び調査内容**

(1) 福島県いわき市 令和6年7月2日（火）

1 いわき版 MaaS 推進プロジェクトについて

(2) 茨城県境町 令和6年7月3日（水）

1 英語教育（スーパーグローバルスクール授業）、現地施設見学

(3) 埼玉県加須市 令和6年7月4日（木）

1 コミュニティバス「かぞ絆号」について

### **4 調査結果**

【第1日目】 福島県いわき市 令和6年7月2日（火）

《視察項目》

いわき版 MaaS 推進プロジェクトについて

（説明者）いわき市総合政策部構造改革・DX 推進課 職員

1 目的

デジタル技術の活用や新たな移動手段の確保、移動の目的と連携した新たな地域サービスの構築により、市民生活の利便性向上や地域経済の活性化を図る。

## 2 実施事業と事業内容について

### ・観光 MaaS（ヒトの移動）

観光移動に対応強化

タクシー配車アプリの導入

キャッシュレス決済の導入

利用者特典電子クーポンの発行

### ・おつかい MaaS（モノの移動）

地元スーパー店との連携強化

宅配サービス等の実施

配送システムの導入

### ・行政 MaaS（サービスの移動）

出張行政の強化

行政 MaaS 車両の活用

出張行政サービス（住民票、税証明書等の発行、相談事業）



## 《所 感》

1 タクシー配車アプリの導入は有効です。

(理由) 人口減少・高齢化が進展している。

路線バスの運行が少ない。

特に高齢者の暮らしに、タクシーは必要です。

2 市民の暮らしに民間事業者（株マルト）の宅配サービスは必要かつ有効です。

(理由) 公共交通の利便性が低い。

路線バスの減便・廃止等で、買い物が困難。

3 出張行政サービスは、市民に必要です。

(理由) 高齢者の運転免許証の返納の進む中、住民票等の申請・発行に有効。

4 いわき市は14の市町村が合併した広域多核分散型の都市（面積 1,232 km<sup>2</sup>）であり、コンパクトな小野市とは環境が大きく違い、タクシー配車等に課題は違うと理解する。

5 観光面では、2006年に「常磐ハワイアンセンター」誕生の実話を基にした映画「フラガール」の大ヒットでフラガールのまちとして全国に知名度を高めた。小野市も国宝「浄土寺」を大いに活用した知名度アップの取り組みはできないかと考える。

6 いわき湯本温泉を参考に、小野市の白雲谷温泉「ゆぴか」をメインに観光客の誘致の企画も一考です。

例①「ゆぴか温泉」と「ルートインホテル」宿泊プラン

例②「ゆぴか温泉」と「ゴルフ」と「ルートインホテル」等の宿泊プラン

7 小野市の面積といわき市の面積と比べると、違うので小野市オンリーワンのらんらんタクシー制度は成功だと考える。

【第2日目】 茨城県境町 令和6年7月3日（水）

（説明者等） ㈱さかいまちづくり公社 副本部長 課長

さかい子育て支援センター 館長

英語教育（スーパーグローバルスクール授業）、現地施設見学

～夢・好きなものなど 英語で話すことができる～

【重点目標】

・重点①Small talk

目標 小学校児童は、まとまりのある対話ができる。

中学生は、話すことができる。

「すべての子どもが英語を話せる町」を目指す。

・重点②Station activity

目標 小学校児童は、英語でコミュニケーションを図ることができる。

中学生は、多様な自己表現活動の場を通じた総合的・実用的な英語力を身につける。



【事業内容】

・ALTの常駐（小学校に13名 中学校に8名）

・学習開始年齢の早期化・学習時間の確保

・オリジナル教材の活用

・英語検定の受験料の全額補助（年1回）

取得目標→小学6年生は3級を、中学3年生は2級を目指す。

・町立のすべての小中学校に英語講師（フィリピン人の）を招聘。

・英語検定の会場に、町立の小中学校を登録している。

《所感》

1 英語検定・受験料の全額補助は一考する価値がある。

（茨城県境町の英語検定3級保有率は、全国平均や県平均を大きく上回っている。）

2 境町は姉妹都市（ハワイ・ホノルル市）との小中学生の交流の活発化は英語教育の成果と捉える。

3 わたしは、一時期、小学校給食費、保育料・給食費および医療費の無料化等が予算化されたことに賛同する。

4 「道の駅さかい」の視察を終えて下記の点に注目した。

・沖縄県の国頭村「道の駅・ゆいゆい国頭」との友好交流協定は、境町にとっても沖縄県の国頭村にとってもプラスと考える。

・「道の駅さかい」の「サンドイッチ事業」の地元産小麦「ゆめかおり」使用のサンドイッチを昼食にいただいた。大変美味しかった。

小野市庁舎1階にパン屋の出店を考えては。

・オリンピックパークについて

オリンピックパーク内に東京駅直結の高速バスターミナルがあるのは魅力的です。首都への交通の利便性も含めて、将来のオリンピック選手を輩出する可能性は大と感じる。境町の知名度アップに繋がる。

小野市には、オリンピック代表選手・田中希実選手がいます。

小野市の知名度アップに一翼を担っていただければと考える。

【第3日目】 埼玉県加須市 令和6年7月4日（木）

（説明者） 埼玉県加須市 政策調整課 職員

#### 《視察項目》

コミュニティバス「かぞ絆号」について

##### 1 導入の経緯

合併前の地域で異なるコミュニティバスの運行があった。合併に際して「合併後に新たな実施方法を検討した上で、新加須市全域を対象とした新たなコミュニティバスを導入すること」を合意していた。

※合併前の状況は、

（ア）旧 加須市は循環バスの運行。

（イ）旧 騎西町は、デマンド型乗合タクシーの運行。

（ウ）旧 北川辺町・旧 大利根町は、運行なし

##### 2 事業の目的

- ・高齢者など交通弱者の足の確保
- ・病院や公共施設等へのアクセス利便性確保
- ・公共交通不便地域の解消

##### 3 コミュニティバスの種類等

- ・デマンド型タクシー 1回 300円（それぞれ1日10便）
- ・シャトルバス（1台） 1回 200円（1日 4往復 8便）
- ・循環バス（1台） 1回 100円（1日 10便）



#### 《所感》

1 加須市は、埼玉県に位置しているが、東に茨城県古河市と接し、北は栃木県栃木市、野木町に接している市であるがゆえに市境及び県境を結ぶ交通に課題があるように思える。

2 小野市が参考にする点は、

- ・行政主体の「予約センター」を設置し、らんらんタクシーの効率的な運行を考えることも一考の余地がある。
- ・小野市のらんらんタクシーの乗降箇所について、もっと柔軟に考えてはいかがと考える。